
2022年度 後期

2.0単位

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

石崎 淳一

< 授業の方法 >

講義だが、発表やワークを含む。

< 授業の目的 >

この科目は心理学研究科の公認心理師必須科目の講義科目である。

この科目では、社会集団、社会システムに関する心理支援の理論と支援方法について学ぶ。これらは大きく、以下の2つのテーマからなる。 家族関係等の集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法。 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法。 については、様々なカップルカウンセリングや家族療法の理論と支援方法について学ぶと共に、夫婦や親子の支援に関わる医療、福祉、教育、司法、産業の現場について理解する。 については、グループ療法やコンサルテーション、コミュニティ心理学の理論と支援方法について学ぶと共に、こうした支援に関わる医療、福祉、教育、司法、産業の現場について理解する。

この科目は、心理学研究科のDP以下の項目に関わる。すなわち、DP1に示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDP3の「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらにDP4の「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を学ぶことを目指す。

なお、この科目担当者は、医療や教育の現場で心理専門職として仕事をする経験をしてきた、実務経験のある教員である。従って、授業においては心理職の働く現場での実際の関わり方等についても言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 家族関係等の集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について説明できる。
2. 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる。
3. 他職種の協働、連携、地域援助等の重要性と方法について説明できる。

< 授業のキーワード >

心理支援、集団、家族、地域、連携

< 授業の進め方 >

受講生が資料を分担して内容の要旨、要点、疑問点等を発表します。各自で資料の当該箇所を読んできているこ

とが前提となります。内容の要点・論点、注意点について解説し、受講生とともに検討して理解を深めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

必要な学修時間は、資料を読むのに2時間程度と考えます。また発表者は、発表準備に5時間程度と考えます。なお、授業の復習もしてください(2時間程度)。その他、確認テスト及びレポートの作成のための学修時間を必要とします(各5時間程度)。

< 提出課題など >

授業内で前半の終わりと、最終回に確認テストを実施します。また定期試験期間中に最終レポートの提出を求めます。定期試験は実施しません。確認テストの正答は授業中に解説します。

< 成績評価方法・基準 >

授業において見られる意欲・態度(20%)、発表の状態(20%)、2回の確認テストの結果(40%)、最終レポートの内容(20%)から総合的に評価します。

< テキスト >

授業の全体を通してのテキストはありません。

< 参考図書 >

『心理援助の専門職として働くために』『(マリアン・コーリィ他著、下山晴彦監訳。金剛出版)、その他の参考書等を適宜、授業内において紹介します。また資料を配布します。

< 授業計画 >

第1回 生物 心理 社会モデル

統合的パラダイムの認識、「素因-ストレス」モデルなどを学ぶ。

第2回 集団(グループ)療法

個人から人間関係へ、集団・集団療法とは何か、などを学ぶ。

第3回 カップル療法と家族療法

カップルの葛藤、合同療法の考え方などを学ぶ。

第4回 コミュニティ心理学

予防と精神保健、精神保健に関わる制度などを学ぶ。

第5回 コミュニティにおける心理支援

心理職の役割、アウトリーチ、政策との関わりなどについて学ぶ。

第6回 グループを通しての心理支援

介入法としての集団的アプローチの実際について学ぶ。

第7回 前半の振り返りとまとめ

前半の振り返りとまとめを行います。1回目の確認テストを実施する。

第8回 個人療法と家族療法を比較する(1)

心理支援の方法として、個人療法のパラダイムと比較しながら家族療法のパラダイムについて理解を深める。

第9回 個人療法と家族療法を比較する(2)

心理支援の方法として、個人療法のパラダイムと比較しながら家族療法のパラダイムについて理解を深める。

第10回 家族を通しての心理援助(1)

家族療法のパラダイム、システムズ・アプローチ、ブリーフセラピーについて学ぶ。

第11回 家族を通しての心理援助（2）

家族構造論と機能論、ジェノグラムの理解と活用の仕方などを学ぶ。

第12回 家族を通しての心理援助（3）

ライフサイクルと子育て支援、愛着と世代間伝達などについて学ぶ。

第13回 問題の統合的な理解とアプローチ（1）

個人心理療法と家族療法を理解した立場から、クライアントの問題をめぐる統合的なアセスメントとアプローチについて学ぶ。

第14回 問題の統合的な理解とアプローチ（2）

個人心理療法と家族療法を理解した立場から、クライアントの問題をめぐる統合的なアセスメントとアプローチについて学ぶ。

第15回 全体の振り返りとまとめ

全体の振り返りとまとめを行なう。2回目の確認テストを実施する。

2022年度 前期

2.0単位

教育分野に関する理論と支援の展開

道城 裕貴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、心理学研究科DP 1、3に示す、教育の分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけ、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指します。この科目は、公認心理師必須科目・講義科目に属します。学校現場におけるさまざまな諸問題を抱える児童生徒へのアセスメント及び支援方法について実践的に学びます。自閉症スペクトラム障害などの発達障害を含む、特別な教育的ニーズがある児童生徒へのアセスメントや支援、教師や家庭に対するコンサルテーション、いじめ、不登校などの問題を抱える児童生徒へのカウンセリングについて理解を深めます。巡回相談、教員研修、スクールカウンセラーなど、教育分野に関わる公認心理師の実践について事例等を通して、学校現場の実情を理解し、実践的技能を高めることを目的としています。なお、この科目の担当者は神戸市教育委員会の巡回相談員、明石市教育委員会の巡回指導員等を約15年間経験した実務経験がある教員です。学校現場での課題について言及しながら学びを深めていきます。

< 到達目標 >

・教育分野における公認心理師の役割について説明できる。(知識)

・教育分野における公認心理師の実践について述べることができる。(知識)

・教育分野におけるアセスメント、支援、コンサルテーションについて説明できる。(知識)

・特別な教育的ニーズがある子ども達の事例的検討を通じて、教育的見立てを行うことができる。(技能)

< 授業のキーワード >

学校臨床、教育分野の法律、アセスメント、コンサルテーション、チーム学校、スクールカウンセラー、公認心理師の専門性

< 授業の進め方 >

講義形式で進める

< 授業時間外に必要な学修 >

講義ではキーワードを事前に調べ、学習しておくこと(90分)。授業後、分からなかった用語などは自分で調べ、復習を行うこと。事例検討では時間内に終わらない場合には課題として取り組むこと(90分)。

< 提出課題など >

授業内において課題提出を求める(詳細は授業で指示する)、第15回目に最終レポートを課す。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み(提出課題)、最終レポートによって評価する(100%)

< 授業計画 >

第1回 本授業の目的と進め方

授業の目的と進め方等についてのガイダンスを行います。

第2回 教育を取り巻く現状

教育基本法、学校教育法、発達障害者支援法いじめ防止対策推進法など教育分野における法律について概観し、特別支援教育、合理的配慮についても具体的に学びます。

第3回 公認心理師の役割

教育分野における現在の心理職について概観し、公認心理師の役割について理解を深めます。あわせて、教育分野の施設等についても整理します。

第4回 学校全体を支援する実践

SPBS、RTI、行動コンサルテーションなど、学校全体を支援する実践モデルについて理解を深めます。

第5回 学校現場でのアセスメント

特別な教育的ニーズがある子ども達への行動観察、機能的アセスメント、LDI-Rなどの質問紙等、学校現場での実践に役立つアセスメントについて理解を深めます。

第6回 特別な教育的ニーズがある子どもの問題行動への支援 - 事例を通して

教育分野におけるコンサルテーションの事例検討を行います。特別な教育的ニーズがある子どもの事例を理解し、機能的アセスメントなどを用いて問題行動の機能を特定し、教師への具体的な支援案を提案します。グループやペア学習により、行います。

第7回 特別な教育的ニーズがある子どもの問題行動への支援 - 事例を通して

教育分野におけるコンサルテーションの事例検討を行います。特別な教育的ニーズがある子どもの事例を理解し、機能的アセスメントなどを用いて問題行動の機能を特定し、教師への具体的な支援案を提案します。グループやペア学習により、行います。

第8回 いじめに悩む児童生徒への支援 - 事例を通して
スクールカウンセリングにおいて、いじめに悩む児童生徒へのカウンセリングについて事例を通して理解を深めます。

第9回 不登校に悩む児童生徒への支援 - 事例を通して
スクールカウンセリングにおいて、不登校に悩む児童生徒へのカウンセリングについて事例を通して理解を深めます。

第10回 アセスメント（検査）から支援を考える - 事例を通して

関係機関から得られた検査結果（例えばWISC- ）を元に、学校での躓きを予測し、学習や学校生活における支援案を考えます。グループやペア学習により、行います。

第11回 学校での姿から検査結果を予測する - 事例を通して

前回とは逆に、相談機関の公認心理師として、対象の児童生徒の検査バッテリーを考え、検査結果を予測することを通して、アセスメントと支援の関係について理解を深めます。グループやペア学習により、行います。

第12回 保護者面談 - 事例を通して

学校で行われる保護者面談について、事例を通して理解を深めます。グループやペア学習により、行います。

第13回 学級崩壊等の学級全体への支援 - 事例を通して
学級崩壊など、学級全体が荒れている場合の教師支援について、事例を通して理解を深めます。グループやペア学習により、行います。

第14回 チーム学校 - 多職種連携の重要性

チーム学校、多職種連携を概観し、関係機関へのリファーなど具体的な実践を紹介します。

第15回 本授業の振り返り

授業全体を振り返り、総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心の健康教育に関する理論と実践

岡村 心平

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

新型コロナウイルス感染症の状況次第では遠隔授業での実施の可能性があります。その場合は「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

本科目は心理学研究科DPに示す、「1.医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけている」および「4.高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働して、研究や職務において主体的な役割を果たすことができる」を目指すものです。

公認心理師の業務として、公認心理師法では、「心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと」が明記されています。心理職はクライアントに対して援助を行うだけでなく、広く「教育」を行うことが必要です。

本科目では、公認心理師として、現場で求められる「心の健康教育」が実際に行えるよう、主に基本の傾聴とストレスマネジメントの観点から理論と実践を取り上げます。

なおこの授業は、教育・医療・産業領域において臨床業務に関わり、心理的支援の実務経験を有する臨床心理士・公認心理師である教員が担当します。

< 到達目標 >

1. 心の健康教育の位置づけと意義を理解し、説明できる。
2. 心の健康教育に必要な知識と技能を身につけ、実践できる。
3. 実際に心の健康教育プログラムを立案し、実行することができる。

< 授業の進め方 >

前半は講義と実習（ワーク体験）を中心に進めます。後半は、各自で「心の健康教育」（レクチャー+体験ワーク含む）プログラムを立案してもらいます。ファシリテーター（実施者）として、学生を受講生に見立ててプログラムを実施し、フィードバックを受けます。プログラム・ファシリテーションはビデオ撮影し、立ち居振る舞いも含めて自分で振り返りを行い、最終レポートにまとめます。自分で最低60分の「心の健康教育」が実施できる力をつけてもらいます。

< 履修するにあたって >

心理職が研修・教育を行う強みは、体験型ワークを適切に盛り込めることです。自分なりにいろいろなワークショップ（学会関係、その他学外のもの）に参加して、使えるワークの引き出しを増やすよう心掛けてください。お互いのプログラムについては、よいところも気になる点も積極的に指摘してください。今のうちに腕を磨きましょう。現場に出たらだれもなにも言ってくれません。仕事が来なくなるだけです。

< 授業時間外に必要な学修 >

プログラムの作成（6時間）、プログラムのリハーサル

(2時間)、最終レポートの作成(3時間)。その他、各自でワークショップに出席する、文献を読む、ワークを自分なりに体験してみるなど自主的に学習すること。

<提出課題など>

授業内で実施したワークについてのミニレポート(授業中に作成)、心の健康教育プログラムの資料(パワーポイント等)、最終レポート。

<成績評価方法・基準>

授業の際のミニ課題(20%)、プログラムの内容とファシリテーション(50%)、最終レポート(30%)

*指定した書式・内容を満たしていないレポート、および提出期限に遅れた提出物は減点します。

*プログラムの実施にあたっては、明らかにリハーサルをしていない場合、また指定した内容に沿っていない(大幅に指定時間よりも短い、内容が指定と異なるなど)場合は減点します。

<参考図書>

『セルフヘルプ・グループとサポート・グループ実施ガイド 始め方・続け方・終わり方』高松里、金剛出版
『産業保健スタッフのためのセルフケア支援マニュアル：ストレスチェックと連動した相談の進め方』島津明人、種市康太郎、誠信書房

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について説明。

第2回 こころの健康教育とは

こころの健康教育について、公認心理師法、労働安全衛生法などの視点からその位置づけと必要性について解説する。

第3回 4つのケア

厚生労働省の定める「4つのケア」の観点から、心の健康教育に必要な内容および多職種との連携について解説する。

第4回 ストレスマネジメント

セルフケアの基本であるストレスマネジメントについて、ワーク体験を中心に学ぶ。

第5回 「傾聴」を教える

傾聴を短い時間でどう教えるか、についての解説とワーク体験。

第6回 研修の組み立て方

研修をどのように組み立てるかについて、解説します。その後、各自が自分の対象とする領域を選び、どのように研修を行うか考えます。

第7回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第8回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第9回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第10回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第11回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第12回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第13回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第14回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

第15回 各自の「心の健康教育」の発表と実施

各自が「心の健康教育」のプログラムを作成し、授業内で実施します。実施した後、他の学生からのフィードバックを受けます。

*実施に先立って、必ず「リハーサル」をして、所要時間と進め方の確認を行うこと。

担当者の発表準備時間の目安：6時間程度

発表前のリハーサル：2時間程度

事後学習としてフィードバックについて振り返り：30分程度

2022年度 前期

2.0単位

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

中川 裕美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、心理学研究科DP 1、3に示す、産業・労働の分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけ、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指します。この科目は、公認心理師必須科目・講義科目に属します。

精神障害による労災請求件数、および決定件数は年々増加傾向にあり、2015年12月より50名以上の従業員がいる事業所を持つ企業では、ストレスチェックの実施が義務づけられるようになりました。また、2018年にはストレスチェックの実施者として必要な研修を修了した公認心理師が加えられました。このような時代背景において、将来、心理の専門家として社会に参加するうえで、職場のメンタルヘルス対策のあり方について理解しておくことは必要不可欠と言えます。この授業では、働く人たちのメンタルヘルスに関する基礎知識、およびメンタルヘルス対策の取り組みについて習得することを目指します。なお、この授業は、リワーク、外部EAP、企業など、産業分野で心理士としての実務経験を10年以上有する教員が担当を行います。

< 到達目標 >

・産業・労働分野における公認心理師の役割について理解する。(知識)

・産業・労働分野における公認心理師の実践について理解する。(知識)

・産業・労働分野における個人と組織のアセスメント、カウンセリング、コンサルテーションについて理解し、説明できる。(技能)

< 授業のキーワード >

職場のメンタルヘルス、ストレスチェック、復職支援、職場環境改善、労務管理

< 授業の進め方 >

各回の前半は、各回の主題に関して、受講生による発表および講義形式で授業を進め、授業の後半にディスカッションを行います。

< 履修するにあたって >

心理学の専門知識に加え、現代社会における労働の問題についても関心を持ち、新聞やニュースを通して情報収集に努めてほしいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の授業の事前学習としてテキストの該当箇所について予習する(90分程度)

各回の授業の事後学習としてテキストの該当箇所について小レポートを作成する(90分程度)

< 提出課題など >

各回の小レポート、および期末レポートの提出を求めます。

授業時間内で評価のフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

3分の2以上の出席をもって評価の対象とする

期末レポート(25%)

毎回の小レポート(75%)

< テキスト >

職場のメンタルヘルス 事例で学ぶ考え方と実践ポイント 川上憲人 大修館書店

< 参考図書 >

職場のメンタルヘルス 事例で学ぶ考え方と実践ポイント 川上憲人 大修館書店
産業・組織心理学を学ぶ 金井篤子 編 北大路書房
働く人たちのメンタルヘルス対策と実務 森下高治・本岡寛子・枚田香 ナカニシヤ出版
職場におけるメンタルヘルスのスペシャリストBOOK 川上憲人・堤 明純 監修 培風館
< 授業計画 >
第1回 職場のメンタルヘルスの重要性について
職場のメンタルヘルスの重要性について、働く人、会社の双方の視点から考察し、議論する。
第2回 働く人のストレスとメンタルヘルス不調について
働く人たちのメンタルヘルス不調の実際と働く人たちのストレスについて学び、対策について議論する。
第3回 働く人たちの心の病と精神障害等による労働災害・過労自殺
働く人たちの心の病と精神障害等による労働災害・過労自殺についての現状を知り、課題と対策について議論する。
第4回 メンタルヘルス不調への気づきと対応
管理監督者によるメンタルヘルス不調への気づきと相談対応について学び、職場のメンタルヘルスに関する二次予防対策の在り方について議論する。
第5回 職場復帰の支援
メンタルヘルス不調で休業した従業員の職場復帰支援について学び、職場のメンタルヘルスに関する三次予防対策について議論する。
第6回 自殺予防
事例を通して自殺の可能性のある部下への対応や自殺発生後の職場への危機介入について検討する。
第7回 ストレスチェック制度
ストレスチェック制度の理解や、個人と職場組織のストレス評価の方法について学び、習得する。
第8回 職場環境改善
職場環境改善の取り組みについて学び、働きやすい職場づくりに向けたアプローチについて議論する。
第9回 予防のためのストレスマネジメント
産業・労働分野におけるストレスマネジメント、リラクゼーション法の導入について議論する。
第10回 職場の人間関係
職場における人間関係管理やハラスメントについての現状課題を知り、対策について議論する。
第11回 働くことの意味
労働条件管理や職務設計などの観点から働くことの意味の理解について議論する。
第12回 リーダーシップ
リーダーシップに関する知見を学び、組織行動の観点から職場のマネジメントについて議論する。
第13回 仕事へのモチベーション

ワークモチベーションに関する知見から、職場の生産性向上に向けた心理の専門家による介入について議論する。
第14回 組織開発
多様な価値観や働きかたを育む組織開発の在り方について検討し、個人と組織に対する心理学的アプローチについて議論する。
第15回 総括
産業・労働分野における公認心理師の活用について検討し、議論する。

2022年度 後期
2.0単位
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
板山 昂

< 授業の方法 >
講義
< 授業の目的 >
この科目は心理学研究科のDP1・3に示す、司法分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指す。
この科目は、司法/犯罪分野に関わる理論を概観し、次に心理師としての関与の方法や支援策について学びます。支援を提供する側とされる側、そして関連機関等の様々な視点から助言や処遇プログラムを考えられるようになることを目的とします。
なお、この科目の担当者は、司法・犯罪分野の職務・実務経験のある教員ではない（刑務所内での特別改善指導における教科教育指導に携わったことはある）。
< 到達目標 >
犯罪や非行に至る原因や心理の分析、再犯・再非行のリスク評価、矯正・更生のための指導・助言等、被害者への支援について理解することができる。
< 授業のキーワード >
犯罪原因論、犯罪予防、犯罪捜査、社会内処遇・施設内処遇、被害者支援
< 授業の進め方 >
講義を中心に進めながら、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。
< 履修するにあたって >
授業の特性上、履修中は毎日、新聞記事、TVニュース等の犯罪関連の情報に触れておくこと。その時に発生した事件等を事例として講義、ワークをすることがある。
< 授業時間外に必要な学修 >
各回に課すレポート（復習：1時間）および次回の予習（事例を読むなど：1時間）

< 提出課題など >

各回に課すレポート。そのレポートを次回、前回の復習を兼ねて発表する。

< 成績評価方法・基準 >

各回に課すレポート：60%、授業中の質疑・発表：40%

< テキスト >

レジュメを配布する予定

< 参考図書 >

レジュメを配布する予定

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション・司法/犯罪心理学の概要

犯罪・非行に関わる心理学について概説し、各事件別に統計から見た犯罪・非行の推移、実態及び主な動機・背景などを学ぶ

第2回 司法システムと司法・犯罪心理学

捜査機関である警察・検察、家裁の段階、処遇決定後の処遇機関（保護観察・少年院）など、職種・仕事、事件の取扱い、流れについて学ぶ

第3回 犯罪原因に関する理論について

生物学的原因論、心理学的原因論、家族理論、社会学的原因論について学ぶ

第4回 犯罪原因に関する理論について

状況・環境要因的原因論について学ぶ

第5回 窃盗・強盗について

窃盗・強盗の背景について学び、さらに更生のための支援策について検討する

第6回 DVとデートバイオレンスについて

親密な関係における暴力の背景、制度等について学び、さらに解決のための支援策について検討する

第7回 ストーカーについて

ストーカーの背景、制度等について学び、さらに解決のための支援策について検討する

第8回 虐待について

虐待の背景、制度等について学び、さらに解決のための支援策について検討する

第9回 性犯罪について

性犯罪の背景、制度等について学び、さらに解決のための支援策について検討する

第10回 非行・犯罪者に対する面接

非行・犯罪者に対する面接について、配慮すべき点やアプローチについて学ぶ

第11回 関係機関との連携

司法機関と児童相談所・児童福祉施設・保護観察所、地域生活定着支援センター等との連携及びそこでの心理職の役割を学ぶ

第12回 被害者への支援

被害者に関する支援の制度実状、面接の留意点について学ぶ

第13回 子どもへの司法面接

被害者や目撃者の面接について概要、特に犯罪場面に遭

遇した子どもから情報を聴き取るための子どもに対する司法面接の方法について学ぶ

第14回 修復的司法

被害者と加害者、そしてコミュニティを修復する「修復的司法」の考え方について学ぶ

第15回 まとめ

振り返りと全体のまとめを行う

2022年度 前期

2.0単位

福祉分野に関する理論と支援の展開

小山 正

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、心理学研究科DP 1、3に示す、福祉分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけ、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指します。この科目は、公認心理師必須科目・講義科目に属します。障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援する障害福祉サービス事業、障害者支援施設、地域活動センター、福祉ホーム、障害児通所支援事業、障害児相談支援事業、児童福祉施設、児童相談所、および就学前の子どもの教育・保育等の場、保健所・保健センター、発達障害者支援センター等の福祉の分野に関わる公認心理師の実践を行うために必要な基礎知識と理論を臨床発達心理学的立場から述べます。また事例検討を通して、福祉現場の実情を理解し、実践的スキルを高めることを目的としています。なお、この科目の担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員として9年間経験した実務経験がある教員です。児童福祉の現場での課題について言及しながら学びを深めていきます。

< 到達目標 >

- ・各福祉施設の役割について説明できる。(知識)
- ・各福祉施設における公認心理師の役割について説明できる。(知識)
- ・福祉分野における公認心理師の実践について述べることができる。(知識)
- ・臨床発達心理学的観点から支援について説明できる。(知識)
- ・子どもの諸行動について発達的な見方ができる。(技能)

< 授業のキーワード >

児童・家庭福祉、保健福祉、障害者福祉、高齢者福祉、

公認心理師の専門性

< 授業の進め方 >

各回の前半は、各回の主題に関して、講義形式で授業を進め、授業の後半にディスカッションを行います。

< 履修するにあたって >

地域の福祉施設やその現状について調べておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の前に前回の配布資料、参考図書を読んでおくこと(90分)。授業後、参考図書、配布資料により討論のまとめ、復習を行う(90分)。

< 提出課題など >

小レポートと学期末にまとめのレポートを提出します。小レポートについては、適宜、記述のポイントなど、講述、総評を行います。

まとめのレポートについては、最終回にコメント、講評を行います。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席をもって単位の認定・評価の対象になります。成績評価は、小レポート(70%)と、まとめのレポート(30%)によって総合的に評価します。レポートの課題は適時示します。

< 参考図書 >

ハリス, M. & ウェスターマン, G. (著), 小山 正・松下 淑 (訳) 「発達心理学ガイドブック: 子どもの発達理解のために」、明石書店、2019年
小椋たみ子・小山 正・水野久美 (著) 「乳幼児期のことばの発達とその遅れ: 保育・発達を学ぶ人のための基礎知識」、ミネルヴァ書房、2018年。

< 授業計画 >

第1回 本授業の目的と進め方

授業の目的と進め方等についてのガイダンスを行います。

第2回 保健福祉領域

保健所、保健センターでの公認心理師の役割について理解を深めます。

第3回 児童・家庭福祉領域

児童福祉施設について理解を深めます。

第4回 児童相談所の役割

児童相談所の任務、役割、業務、一時保護所の運営等について学びます。

第5回 認定こども園

認定こども園における子育て支援の実際と公認心理師の役割について学びます。

第6回 発達障害者支援センターの役割

発達障害や発達障害に対する発達支援などを行う地域拠点施設である発達障害者支援センター等について理解を深めます。

第7回 障害者福祉領域

障害者支援施設、福祉ホーム、障害者職業センター等の施設の役割と機能について理解を深めます。

第8回 高齢者福祉領域

老人福祉施設、地域包括支援センター等について理解を深めます。

第9回 各施設職員との連携

ここでは事例を通して、各施設職員と公認心理師との連携について学びます。

第10回 ケース処遇について

事例を通して、それぞれの社会資源の役割、機能について理解を深めます。

第11回 虐待の予防、子育て支援

虐待発生時の早期発見と対応、被虐待児への支援などについて事例を通して学びます。

第12回 発達障害への支援

発達障害について理解を深め、発達障害への支援の在り方について事例を通して考えていきます。

第13回 支援の充実に向けて

支援ニーズの多様化への対応とより充実した支援に向けての今後の課題について考えます。

第14回 福祉分野での公認心理師の役割

公認心理師の福祉分野での役割と課題について整理します。

第15回 本授業の振り返り

授業全体を振り返り、総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

石崎 淳一

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。本演習では、これまで修得した心理学の知識を踏まえ、自分自身の研究やそれに関連する先行研究を実社会における実践の観点も踏まえながら批判的に捉え、心理学における理論と現実社会における実践を関連づけるための視点・視座を確立することを目的とします。受講生が自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて議論を行うという演習形式で実施します。この科目の学修を通して、受講生は、自分自身の問題意識を深め、新しいリサーチクエスションを設定することができます。また、本演習では、ケースカンファレンス等を通して、心理専門職としての心理学的支援の技能を

獲得できることも目指します。

なお、本授業の担当者は公認心理師であり、心理職としての実務経験のある教員です。

<到達目標>

・自らの研究テーマ設定し、その位置づけについて述べるができる。(知識)

・自らの研究方法について説明できる。(知識)

・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)

・心理学的実践と理論との関連について述べるができる。(知識)

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

<授業時間外に必要な学修>

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない(目安は週3時間程度)。

<提出課題など>

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究および各種実習の経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

・発表者以外の者も必ず出席して発言する。

・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。

・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

それぞれの発表に対して、それぞれの授業の最後に教員は改善点などについて講評し、フィードバックとする。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さ

などについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 研究テーマに関する発表と討議1

第1発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第3回 研究テーマに関する発表と討議2

第2発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第4回 研究テーマに関する発表と討議3

第3発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第5回 研究方法に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 研究方法に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 研究方法に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 研究倫理に関する検討と討議1

第1発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第9回 研究倫理に関する検討と討議2

第2発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第10回 研究倫理に関する検討と討議3

第3発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第11回 研究資料収集に関する課題の確認と現状報告

受講生各自の研究資料収集に関する現状報告とその課題の確認

第12回 研究計画に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第13回 研究計画に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第14回 研究計画に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

山本 恭子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。本演習では、これまで修得した心理学の知識を踏まえ、自分自身の研究やそれに関連する先行研究を実社会における実践の観点も踏まえながら批判的に捉え、心理学における理論と現実社会における実践を関連づけるための視点・視座を確立することを目的とします。受講生が自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて議論を行うという演習形式で実施します。この科目の学修を通して、受講生は、自分自身の問題意識を深め、新しいリサーチクエスションを設定することができます。また、本演習では、ケースカンファレンス等を通して、心理専門職としての心理学的支援の技能を獲得することも目指します。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマ設定し、その位置づけについて述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・心理学的実践と理論との関連について述べるができる。(知識)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講

生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない(目安は週3時間程度)。

< 提出課題など >

発表の仕方と提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出結果と演習参加状況により総合的に評価する。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 研究テーマに関する発表と討議1

第1発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第3回 研究テーマに関する発表と討議2

第2発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第4回 研究テーマに関する発表と討議3

第3発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第5回 研究方法に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 研究方法に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 研究方法に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 研究倫理に関する検討と討議1

第1発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第9回 研究倫理に関する検討と討議2

第2発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第10回 研究倫理に関する検討と討議3

第3発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第11回 研究資料収集に関する課題の確認と現状報告

受講生各自の研究資料収集に関する現状報告とその課題の確認

第12回 研究計画に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第13回 研究計画に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第14回 研究計画に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

難波 愛

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。本演習では、これまで修得した心理学の知識を踏まえ、自分自身の研究やそれに関連する先行研究を実社会における実践の観点も踏まえながら批判的に捉え、心理学における理論と現実社会における実践を関連づけるための視点・視座を確立することを目的とします。受講生が自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて議論を行うという演習形式で実施します。この科目の学修を通して、受講生は、自分自身の問題意識を深め、新しいリサーチクエスションを設定することができます。また、本演習では、ケースカンファレンス等を通して、心理専門職としての心理学的支援の技能を獲得できることも目指します。

なお、本科目の担当教員は教育領域で25年の実務経験があり、現在も教育現場での支援活動を行っている。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマ設定し、その位置づけについて述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・心理学的実践と理論との関連について述べるができる。

きる。(知識)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない(目安は週3時間程度)。

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究および各種実習の経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・発表者以外の者も必ず出席して発言する。
- ・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。

・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

それぞれの発表に対して、それぞれの授業の最後に教員は改善点などについて講評し、フィードバックとする。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 研究テーマに関する発表と討議1

第1発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第3回 研究テーマに関する発表と討議2

第2発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第4回 研究テーマに関する発表と討議3
 第3発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第5回 研究方法に関する発表と討議1
 第1発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 研究方法に関する発表と討議2
 第2発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 研究方法に関する発表と討議3
 第3発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 研究倫理に関する検討と討議1
 第1発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第9回 研究倫理に関する検討と討議2
 第2発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第10回 研究倫理に関する検討と討議3
 第3発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第11回 研究資料収集に関する課題の確認と現状報告
 受講生各自の研究資料収集に関する現状報告とその課題の確認

第12回 研究計画に関する発表と討議1
 第1発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第13回 研究計画に関する発表と討議2
 第2発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第14回 研究計画に関する発表と討議3
 第3発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第15回 本授業のふりかえり
 受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

 2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

小久保 香江

 < 授業の方法 >

演習

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマ設定し、その位置づけについて述べる事ができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)

- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)

- ・心理学的実践と理論との関連について述べる事ができる。(知識)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない(目安は週3時間程度)。

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究および各種実習の経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・発表者以外の者も必ず出席して発言する。

- ・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。

- ・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

それぞれの発表に対して、それぞれの授業の最後に教員は改善点などについて講評し、フィードバックとする。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 研究テーマに関する発表と討議1

第1発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第3回 研究テーマに関する発表と討議2

第2発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第4回 研究テーマに関する発表と討議3

第3発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第5回 研究方法に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 研究方法に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 研究方法に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 研究倫理に関する検討と討議1

第1発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第9回 研究倫理に関する検討と討議2

第2発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第10回 研究倫理に関する検討と討議3

第3発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第11回 研究資料収集に関する課題の確認と現状報告

受講生各自の研究資料収集に関する現状報告とその課題の確認

第12回 研究計画に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第13回 研究計画に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第14回 研究計画に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

道城 裕貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。本演習では、これまで修得した心理学の知識を踏まえ、自分自身の研究やそれに関連する先行研究を実社会における実践の観点も踏まえながら批判的に捉え、心理学における理論と現実社会における実践を関連づけるための視点・視座を確立することを目的とします。受講生が自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて議論を行うという演習形式で実施します。この科目の学修を通して、受講生は、自分自身の問題意識を深め、新しいリサーチクエスションを設定することができます。また、本演習では、ケースカンファレンス等を通して、心理専門職としての心理学的支援の技能を獲得することも目指します。

なお、この演習担当者は公認心理師であり、教育現場で約15年の心理実践の経験があります。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマ設定し、その位置づけについて述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・心理学的実践と理論との関連について述べるができる。(知識)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講

生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない(目安は週3時間程度)。

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究および各種実習の経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

・発表者以外の者も必ず出席して発言する。
・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。

・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

それぞれの発表に対して、それぞれの授業の最後に教員は改善点などについて講評し、フィードバックとする。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 研究テーマに関する発表と討議1

第1発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第3回 研究テーマに関する発表と討議2

第2発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第4回 研究テーマに関する発表と討議3

第3発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第5回 研究方法に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 研究方法に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発

表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 研究方法に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 研究倫理に関する検討と討議1

第1発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第9回 研究倫理に関する検討と討議2

第2発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第10回 研究倫理に関する検討と討議3

第3発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第11回 研究資料収集に関する課題の確認と現状報告

受講生各自の研究資料収集に関する現状報告とその課題の確認

第12回 研究計画に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第13回 研究計画に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第14回 研究計画に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

中川 裕美

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。本演習では、これまで修得した心理学の知識を踏まえ、自分自身の研究やそれに関連する先行研究を実社会における実践の観点も踏まえながら批判的に捉え、心理学におけ

る理論と現実社会における実践を関連づけるための視点・視座を確立することを目的とします。受講生が自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて議論を行うという演習形式で実施します。この科目の学修を通して、受講生は、自分自身の問題意識を深め、新しいリサーチクエスションを設定することができます。また、本演習では、ケースカンファレンス等を通して、心理専門職としての心理学的支援の技能を獲得できることも目指します。

なお、この授業は産業分野における実務経験を10年以上有する教員が担当を行います。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマ設定し、その位置づけについて述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・心理学的実践と理論との関連について述べるができる。(知識)

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

<授業時間外に必要な学修>

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない(目安は週3時間程度)。

<提出課題など>

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究および各種実習の経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・発表者以外の者も必ず出席して発言する。
- ・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。
- ・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

それぞれの発表に対して、それぞれの授業の最後に教員は改善点などについて講評し、フィードバックとする。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点的整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 研究テーマに関する発表と討議1

第1発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第3回 研究テーマに関する発表と討議2

第2発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第4回 研究テーマに関する発表と討議3

第3発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第5回 研究方法に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 研究方法に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 研究方法に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 研究倫理に関する検討と討議1

第1発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第9回 研究倫理に関する検討と討議2

第2発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第10回 研究倫理に関する検討と討議3

第3発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第11回 研究資料収集に関する課題の確認と現状報告

受講生各自の研究資料収集に関する現状報告とその課題の確認

第12回 研究計画に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議

する。

第13回 研究計画に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第14回 研究計画に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

----->
2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

毛 新華

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。本演習では、これまで修得した心理学の知識を踏まえ、自分自身の研究やそれに関連する先行研究を実社会における実践の観点も踏まえながら批判的に捉え、心理学における理論と現実社会における実践を関連づけるための視点・視座を確立することを目的とします。受講生が自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて議論を行うという演習形式で実施します。この科目の学修を通して、受講生は、自分自身の問題意識を深め、新しいリサーチクエスションを設定することができます。また、本演習では、ケースカンファレンス等を通して、心理専門職としての心理学的支援の技能を獲得することも目指します。

なお、この演習担当者は公認心理師であります。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマ設定し、その位置づけについて述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・心理学的実践と理論との関連について述べるができる。(知識)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない(目安は週3時間程度)。

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究および各種実習の経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・発表者以外の者も必ず出席して発言する。
- ・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。
- ・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

それぞれの発表に対して、それぞれの授業の最後に教員は改善点などについて講評し、フィードバックとする。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 研究テーマに関する発表と討議1

第1発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第3回 研究テーマに関する発表と討議2

第2発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第4回 研究テーマに関する発表と討議3

第3発表者が研究テーマについて発表し、討議する。

第5回 研究方法に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討議を行います。

第6回 研究方法に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討議を行います。

第7回 研究方法に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究に向けた研究方法に関する発表し、討議する。担当受講生による発表と全体討議を行います。

第8回 研究倫理に関する検討と討議1

第1発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第9回 研究倫理に関する検討と討議2

第2発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第10回 研究倫理に関する検討と討議3

第3発表者が修士論文研究における研究倫理からの検討について発表し、討議する。

第11回 研究資料収集に関する課題の確認と現状報告
受講生各自の研究資料収集に関する現状報告とその課題の確認

第12回 研究計画に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第13回 研究計画に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第14回 研究計画に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文の研究計画について発表し、討議する。

第15回 本授業のふりかえり
受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

石崎 淳一

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野

に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。心理学演習 に引き続き、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、サーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、心理学演習 に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

なお、本授業の担当者は公認心理師であり、心理職としての実務経験のある教員です。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・分析方法について説明できる。(知識)
- ・資料の分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について、それを遵守できる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習形式で行う。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(週3時間程度)

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究経過や成果、

関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・発表者以外の者も必ず出席して発言する。
- ・発表者は必ず説明資料（発表レジュメ）を配布のうえ発表する。

・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的参加度（毎回の質問や意見・感想等の内容に基づく）（20％）、発表内容（20％）、発表時に用意した配布物（20％）、発表者でないときの発言（20％）、最終レポート（20％）、の5点について、それぞれを評価し、その評価結果を合算する。

<テキスト>

特に使用しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 リサーチ・クエストに関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエストに関する発表と討議を行う。

第3回 リサーチ・クエストに関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエストに関する発表と討議を行う。

第4回 リサーチ・クエストに関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエストに関する発表と討議を行う。

第5回 先行研究に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第6回 先行研究に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第7回 先行研究に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第8回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認1

第1発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第9回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認2

第2発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第10回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認3

第3発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第11回 研究倫理に関する検討と討議

受講生各自の研究倫理に関する課題を確認し、適切な対処に関して、討議する。

第12回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議1

第1発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第13回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議2

第2発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第14回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議3

第3発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

山本 恭子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。心理学演習 に引き続き、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエストに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエストの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、心理学演習 に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・分析方法について説明できる。(知識)

- ・資料の分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について、それを遵守できる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習形式で行う。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(週3時間程度)

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・発表者以外の者も必ず出席して発言する。
- ・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。
- ・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加度(毎回の質問や意見・感想等の内容に基づく)(20%)、発表内容(20%)、発表時に用意した配布物(20%)、発表者でないときの発言(20%)、最終レポート(20%)、の5点について、それぞれを評価し、その評価結果を合算する。

< テキスト >

特に使用しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第3回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチ

ョンに関する発表と討議を行う。

第4回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議3
第3発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第5回 先行研究に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第6回 先行研究に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第7回 先行研究に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第8回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認1

第1発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第9回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認2

第2発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第10回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認3

第3発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第11回 研究倫理に関する検討と討議

受講生各自の研究倫理に関する課題を確認し、適切な対処に関して、討議する。

第12回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議1

第1発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第13回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議2

第2発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第14回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議3

第3発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

難波 愛

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先

行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。心理学演習 に引き続き、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、心理学演習 に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

<到達目標>

・自らの研究テーマの意義について述べることができる。

(知識)

・自らの研究方法について説明できる。(知識)

・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)

・分析方法について説明できる。(知識)

・資料の分析を行うことができる。(態度・習慣)

・研究報告の準備ができる。(技能)

・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)

・研究倫理について、それを遵守できる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

<授業の進め方>

演習形式で行う。

<履修するにあたって>

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

<授業時間外に必要な学修>

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(週3時間程度)

<提出課題など>

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

・発表者以外の者も必ず出席して発言する。

・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。

・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的参加度(毎回の質問や意見・感想等の内容に基づく)(20%)、発表内容(20%)、発表時に用意した配布物(20%)、発表者でないときの発言(20%)、最終レポート(20%)、の5点について、それぞれを評価し、その評価結果を合算する。

<テキスト>

特に使用しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 リサーチ・クエスションに関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスションに関する発表と討議を行う。

第3回 リサーチ・クエスションに関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスションに関する発表と討議を行う。

第4回 リサーチ・クエスションに関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスションに関する発表と討議を行う。

第5回 先行研究に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第6回 先行研究に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第7回 先行研究に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第8回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認1

第1発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第9回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認2

第2発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第10回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認3

第3発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第11回 研究倫理に関する検討と討議

受講生各自の研究倫理に関する課題を確認し、適切な対処に関して、討議する。

第12回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議1

第1発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第13回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議2
第2発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第14回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議3
第3発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

小久保 香江

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。心理学演習 に引き続き、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、心理学演習 に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・分析方法について説明できる。(知識)
- ・資料の分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)

・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)

・研究倫理について、それを遵守できる。(態度・習慣)
< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習形式で行う。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(週3時間程度)

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

・発表者以外の者も必ず出席して発言する。

・発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。

・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加度(毎回の質問や意見・感想等の内容に基づく)(20%)、発表内容(20%)、発表時に用意した配布物(20%)、発表者でないときの発言(20%)、最終レポート(20%)、の5点について、それぞれを評価し、その評価結果を合算する。

< テキスト >

特に使用しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 リサーチ・クエスションに関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスションに関する発表と討議を行う。

第3回 リサーチ・クエスションに関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスションに関する発表と討議を行う。

第4回 リサーチ・クエスションに関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチ

ョンに関する発表と討議を行う。

第5回 先行研究に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第6回 先行研究に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第7回 先行研究に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第8回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認1

第1発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第9回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認2

第2発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第10回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認3

第3発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第11回 研究倫理に関する検討と討議

受講生各自の研究倫理に関する課題を確認し、適切な対処に関して、討議する。

第12回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議1

第1発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第13回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議2

第2発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第14回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議3

第3発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

道城 裕貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な

考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。心理学演習 に引き続き、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、サーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、心理学演習 に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

なお、この演習担当者は公認心理師であり、教育現場で約15年の心理実践の経験があります。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・分析方法について説明できる。(知識)
- ・資料の分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について、それを遵守できる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習形式で行う。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(週3時間程度)

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・発表者以外の者も必ず出席して発言する。

・発表者は必ず説明資料（発表レジュメ）を配布のうえ発表する。

・授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的参加度（毎回の質問や意見・感想等の内容に基づく）（20%）、発表内容（20%）、発表時に用意した配布物（20%）、発表者でないときの発言（20%）、最終レポート（20%）、の5点について、それぞれを評価し、その評価結果を合算する。

<テキスト>

特に使用しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第3回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第4回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第5回 先行研究に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第6回 先行研究に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第7回 先行研究に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第8回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認1

第1発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第9回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認2

第2発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第10回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認3

第3発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第11回 研究倫理に関する検討と討議

受講生各自の研究倫理に関する課題を確認し、適切な対処に関して、討議する。

第12回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議1

第1発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行

い、その課題を討議する。

第13回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議2

第2発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第14回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議3

第3発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

中川 裕美

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。心理学演習 に引き続き、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサーチクエスチョンに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、サーチクエスチョンの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、心理学演習 に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

なお、この授業は産業分野における実務経験を10年以上有する教員が担当を行います。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)
- ・分析方法について説明できる。(知識)
- ・資料の分析を行うことができる。(態度・習慣)

- ・ 研究報告の準備ができる。(技能)
 - ・ 心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
 - ・ 研究倫理について、それを遵守できる。(態度・習慣)
- < 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習形式で行う。

< 履修するにあたって >

本演習の趣旨を理解し、自分自身の研究課題への取り組みを意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。受講生の人数は、4月当初まで確定しないので、下記の授業計画は3名の受講生があると仮定し、確定後に受講生人数に合わせて授業計画を調整する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(週3時間程度)

< 提出課題など >

授業では、受講生は順番を決めて各自の研究経過や成果、関連文献の紹介などを発表する。その際、パワーポイントを用いること。発表のあと他の受講生との間で質疑応答を行い、内容を深める。

- ・ 発表者以外の者も必ず出席して発言する。
- ・ 発表者は必ず説明資料(発表レジュメ)を配布のうえ発表する。
- ・ 授業時間以外に、各自が実験や調査などの実地の予備的作業を進めるとともに、文献検索・読み込みなどを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加度(毎回の質問や意見・感想等の内容に基づく)(20%)、発表内容(20%)、発表時に用意した配布物(20%)、発表者でないときの発言(20%)、最終レポート(20%)、の5点について、それぞれを評価し、その評価結果を合算する。

< テキスト >

特に使用しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について理解する。各自の発表の予定を決める。今後、修士論文の作成と提出に関する重要な留意事項を理解する。

第2回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第3回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第4回 リサーチ・クエスチョンに関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究におけるリサーチ・クエスチョンに関する発表と討議を行う。

第5回 先行研究に関する発表と討議1

第1発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第6回 先行研究に関する発表と討議2

第2発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第7回 先行研究に関する発表と討議3

第3発表者が修士論文研究における先行研究に関する発表と討議を行う。

第8回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認1

第1発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第9回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認2

第2発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第10回 研究資料収集に関する現状報告と課題の確認3

第3発表者が研究資料収集に関する現状報告を行い、今後の課題を議論する。

第11回 研究倫理に関する検討と討議

受講生各自の研究倫理に関する課題を確認し、適切な対処に関して、討議する。

第12回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議1

第1発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第13回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議2

第2発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第14回 研究資料に関する検討結果の現状報告と討議3

第3発表者が研究資料に関する検討結果の現状報告を行い、その課題を討議する。

第15回 本授業のふりかえり

受講者全員が各自の研究活動をふりかえり、反省点と今後の課題を総括し、レポートにまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

毛 新華

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科DP 1、2、3に示す心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること、先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること、心理学の高度な知識と技能を活用

し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すことができることを目指しています。心理学演習に引き続き、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサーークエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、サーークエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、心理学演習に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得することも目指します。

なお、この演習担当者は公認心理師であります。

<到達目標>

・自らの研究テーマの意義について述べるができる。

(知識)

・自らの研究方法について説明できる。(知識)

・資料の収集を行うことができる。(態度・習慣)

・分析方法について説明できる。(知識)

・資料の分析を行うことができる。(態度・習慣)

・研究報告の準備ができる。(技能)

・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)

・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

心理学の専門知識，文献検索，プレゼンテーション

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

自身に関心を持つ文献を読み、内容を整理しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

<提出課題など>

発表担当時にはレジュメを提出します。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 レジュメの書き方と発表方法

レジュメの書き方、パワーポイントの使用方法、発表やディスカッションの仕方など基本的な事柄を確認します。また受講生の発表順序や発表内容の概要について検討します。

第3回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

山本 恭子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

「心理学演習」および「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジ

ュメを作成すること。

<提出課題など>

発表の仕方と提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

課題の提出結果と演習参加状況により総合的に評価する。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明する。シラバスを読み、授業計画と概要について説明する。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

小山 正

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけること」によって心理学研究を進めること、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。なお、この科目の担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員として9年間経験した実務経験がある教員です。児童福祉の現場での課題について言及しながら学びを深めていきます。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

「心理学演習」および「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

<提出課題など>

発表の仕方と提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明する。シラバスを読み、授業計画と概要について説明する。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

長谷川 千洋

< 授業の方法 >

演習

感染対策のために遠隔授業を行う可能性がありますので、遠隔授業情報を確認してください。

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 ・ 」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習 ・ 」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。本演習は公認心理師であり医療分野で20年にわたり心理臨床の実務経験のある教員が担当します。心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度

・習慣)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます(一部はオンライン授業)。

< 履修するにあたって >

「心理学演習 」および「心理学演習 」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

< 提出課題など >

発表の仕方と提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明する。シラバスを読み、授業計画と概要について説明する。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

清水 寛之

< 授業の方法 >

演習

感染対策のために遠隔授業を行う可能性がありますので、遠隔授業情報を確認してください。

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 Ⅰ」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することも目標とします。また、「心理学演習 Ⅱ」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。本演習は公認心理師であり、教育分野で30年にわたり心理相談・心理アセスメントの実務経験のある教員が担当します。心

理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます(一部はオンライン授業)。

< 履修するにあたって >

「心理学演習 Ⅰ」および「心理学演習 Ⅱ」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

< 提出課題など >

発表の仕方と提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしませんが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明する。シラバスを読み、授業計画と概要について説明する。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。
第3回 担当受講生による発表2
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第4回 担当受講生による発表3
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第5回 担当受講生による発表4
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第6回 担当受講生による発表5
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第7回 担当受講生による発表6
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第8回 担当受講生による発表7
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第9回 担当受講生による発表8
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第10回 担当受講生による発表9
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第11回 担当受講生による発表10
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第12回 担当受講生による発表11
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第13回 担当受講生による発表12
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第14回 担当受講生による発表13
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第15回 授業のふりかえり
今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

土井 晶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 Ⅰ」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践

の観点も設定したリサーチクエストに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエストの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習 Ⅰ」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。本演習は公認心理師であり産業分野で15年以上にわたり心理臨床の実務経験のある教員が担当します。心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

< 到達目標 >

・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)

・自らの研究方法について説明できる。(知識)

・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)

・研究計画書を作成できる。(技能)

・研究報告の準備ができる。(技能)

・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)

・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます(一部はオンライン授業)。

< 履修するにあたって >

「心理学演習 Ⅰ」および「心理学演習 Ⅱ」の授業を履修しておくこと。普段から自身が興味をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

< 提出課題など >

発表の仕方と提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出結果と演習参加状況により総合的に評価する。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明する。シラバスを読み、授業計画と概要について説明する。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

村井 佳比子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 Ⅰ」に引き続き、より

質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、サーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することも目標とします。また、「心理学演習 Ⅰ」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

なお、この科目担当者は、特に精神科クリニックで心理専門職として仕事をしてきた、実務経験のある教員です。実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指します。

< 到達目標 >

・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)

・自らの研究方法について説明できる。(知識)

・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)

・研究計画書を作成できる。(技能)

・研究報告の準備ができる。(技能)

・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)

・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

「心理学演習 Ⅰ」および「心理学演習 Ⅱ」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

< 提出課題など >

授業では、受講生は各自の研究計画や修士論文研究の進捗状況などを発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明する。シラバスを読み、授業計画と概要について説明する。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

心理学演習

毛 新華

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 ・ 」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエストに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエストの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習 ・ 」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。

なお、この演習担当者は公認心理師であります。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

「心理学演習」および「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

<提出課題など>

授業では、受講生は各自の研究計画や修士論文研究の進捗状況などを発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明する。シラバスを読み、授業計画と概要について説明する。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

山本 恭子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチエスジョンに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチエスジョンの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。さらに、公認心理師国家試験に向けて、これまでに獲得した心理学的知識・技能のさらなる理解を深めることも目的とします。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)

- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・公認心理師資格に必要な知識・技能について整理できる。

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告、公認心理師国家試験

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

「心理学演習」、「心理学演習」、「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

< 提出課題など >

授業では、公認心理師として必要な心理学的知識・技能について、あるいは各自の修士論文研究について整理し発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は発表内容50%、課題の提出状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点的整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

小山 正

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけること」によって心理学研究を進めること、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサーークエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは

再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習・・・」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。さらに、公認心理師国家試験に向けて、これまでに獲得した心理学的知識・技能のさらなる理解を深めることも目的とします。また、この科目は、公認心理師であり、児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員として9年間経験した実務経験がある教員です。児童福祉の現場での課題について言及しながら学びを深めていきます。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べることができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・公認心理師資格に必要な知識・技能について整理できる。

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告、公認心理師国家試験

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

「心理学演習」、「心理学演習」、「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジюмеを作成すること。

<提出課題など>

授業では、公認心理師として必要な心理学的知識・技能について、あるいは各自の修士論文研究について整理し発表します。その際、発表担当時にはレジюмеを提出します。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとします

が、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

長谷川 千洋

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけること」によって心理学研究を進めること、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 Ⅰ」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習 Ⅱ」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。さらに、公認心理師国家試験に向けて、これまでに獲得した心理学的知識・技能のさらなる理解を深めることも目的とします。本演習は公認心理師であり医療分野で20年にわたり心理臨床の実務経験のある教員が担当します。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・公認心理師資格に必要な知識・技能について整理できる。

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告、公認心理師国家試験

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

「心理学演習Ⅰ」「心理学演習Ⅱ」「心理学演習Ⅲ」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進

捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。
<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

<提出課題など>

授業では、公認心理師として必要な心理学的知識・技能について、あるいは各自の修士論文研究について整理し発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。
第13回 担当受講生による発表12
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第14回 担当受講生による発表13
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第15回 授業のふりかえり
今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

清水 寛之

< 授業の方法 >

演習

感染対策のために遠隔授業を行う可能性がありますので、遠隔授業情報を確認してください。

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 Ⅰ」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することも目標とします。また、「心理学演習 Ⅱ」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。さらに、公認心理師国家試験に向けて、これまでに獲得した心理学的知識・技能のさらなる理解を深めることも目的とします。本演習は公認心理師であり、教育分野で30年にわたり心理相談・心理アセスメントの実務経験のある教員が担当します。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)

- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・公認心理師資格に必要な知識・技能について整理できる。

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告、公認心理師国家試験

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

「心理学演習 Ⅰ」「心理学演習 Ⅱ」「心理学演習 Ⅲ」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

< 提出課題など >

授業では、公認心理師として必要な心理学的知識・技能について、あるいは各自の修士論文研究について整理し発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第4回 担当受講生による発表3
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第5回 担当受講生による発表4
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第6回 担当受講生による発表5
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第7回 担当受講生による発表6
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第8回 担当受講生による発表7
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第9回 担当受講生による発表8
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第10回 担当受講生による発表9
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第11回 担当受講生による発表10
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第12回 担当受講生による発表11
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第13回 担当受講生による発表12
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第14回 担当受講生による発表13
担当受講生による発表と全体討論を行います。
第15回 授業のふりかえり
今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

土井 晶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサーチクエスションに基づいて、現

在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。さらに、公認心理師国家試験に向けて、これまでに獲得した心理学的知識・技能のさらなる理解を深めることも目的とします。

また、この科目は、公認心理師であり、主として産業領域で15年以上の実務経験のある教員が担当します。産業現場における実践研究についても言及しながら、深い学びへとつないでいきます。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・公認心理師資格に必要な知識・技能について整理できる。

< 授業のキーワード >

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告、公認心理師国家試験

< 授業の進め方 >

演習方式で進めます。

< 履修するにあたって >

「心理学演習」「心理学演習」「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

< 提出課題など >

授業では、公認心理師として必要な心理学的知識・技能について、あるいは各自の修士論文研究について整理し発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

村井 佳比子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習 ・ 」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したリサーチクエストに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、リサーチクエストの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習 ・ ・ 」に引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。さらに、公認心理師国家試験に向けて、これまでに獲得した心理学的知識・技能のさらなる理解を深めることも目的とします。

なお、この科目担当者は、特に精神科クリニックで心理専門職として仕事をしてきた、実務経験のある教員です。実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指します。

< 到達目標 >

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)

- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・公認心理師資格に必要な知識・技能について整理できる。

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告、公認心理師国家試験

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

「心理学演習」「心理学演習」「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

<提出課題など>

授業では、公認心理師として必要な心理学的知識・技能について、あるいは各自の修士論文研究について整理し発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学演習

毛 新華

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科修士課程DP 1、2、3に関連して、「医療・福祉・教育・司法・産業などの様々な分野で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につけること」、「先行研究や文献を広く学び研究方法を身につけることによって心理学研究を進めること」、「心理学の高度な知識と技能を活用し様々な分野の今日的課題を発見し、多角的な考察により心理学の理論と実践を相互に関連づけることで解決の方法を見出すこと」ができることを目指しています。「心理学演習」に引き続き、より質の高い修士論文の完成を目標に、各受講生の研究内容と心理学的支援に関する技能を深めることを目指します。各受講生が、自分自身の研究計画や関連する先行研究に関する話題を提供し、それについて実社会における実践の観点も設定したりサークエスションに基づいて、現在進行中の自らの研究を振り返り、理論と実践の関連付けを目指して批判的に検討をします。この科目の学修を通して、サークエスションの吟味と深化、あるいは再設定を行うことができる。また、データ収集にあたっては倫理的配慮の重要性を十分理解することができることも目標とします。また、「心理学演習」に

引き続き、本演習では、心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できることも目指します。さらに、公認心理師国家試験に向けて、これまでに獲得した心理学的知識・技能のさらなる理解を深めることも目的とします。

なお、この演習担当者は公認心理師であります。

<到達目標>

- ・自らの研究テーマの意義について述べるができる。(知識)
- ・自らの研究方法について説明できる。(知識)
- ・データ・資料の収集・分析を行うことができる。(態度・習慣)
- ・研究計画書を作成できる。(技能)
- ・研究報告の準備ができる。(技能)
- ・心理専門職としての心理学的支援に関する技能を獲得できる。(技能)
- ・研究倫理について理解し、それを遵守できる。(態度・習慣)
- ・公認心理師資格に必要な知識・技能について整理できる。

<授業のキーワード>

心理専門職、心理学研究法、研究倫理、心理学研究の成果報告、公認心理師国家試験

<授業の進め方>

演習方式で進めます。

<履修するにあたって>

「心理学演習」「心理学演習」「心理学演習」の授業を履修しておくこと。普段から自身が関心をもつ文献を読み、内容を整理しておくこと。自らの研究の進捗状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をすること。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外において、おおよそ1時間程度で以下の授業準備をすること。

関心を持つ文献を探し、その内容をまとめ、適切なレジュメを作成すること。

<提出課題など>

授業では、公認心理師として必要な心理学的知識・技能について、あるいは各自の修士論文研究について整理し発表します。その際、発表担当時にはレジュメを提出します。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

遅刻・早退は欠席とみなし、公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとしますが、その上限は2回までとします。成績評価は発表内容50%、出席状況、及び討論時の発言、意見など授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

発表内容の目的や要点の整理の仕方、発表方法の明確さ

などについて適切に評価し、コメントを伝えます。

<テキスト>

特に指定しません。

<参考図書>

特に指定しません。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 担当受講生による発表1

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第3回 担当受講生による発表2

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第4回 担当受講生による発表3

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第5回 担当受講生による発表4

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第6回 担当受講生による発表5

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第7回 担当受講生による発表6

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第8回 担当受講生による発表7

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第9回 担当受講生による発表8

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第10回 担当受講生による発表9

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第11回 担当受講生による発表10

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第12回 担当受講生による発表11

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第13回 担当受講生による発表12

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第14回 担当受講生による発表13

担当受講生による発表と全体討論を行います。

第15回 授業のふりかえり

今までの授業のふりかえりと総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理学研究法

岡村 心平

<授業の方法>

対面授業(講義)

新型コロナウイルス感染症の状況次第では遠隔授業での実施の可能性があります。その場合は「遠隔授業情報」をご確認ください。

<授業の目的>

目標：この科目は、心理学研究科の修士課程DP1・2・3

・4の獲得を目指す。具体的には、公認心理師として修得していることが望ましい研究手法について学修する。各種介入の効果を適切に測定する、あるいは、効果研究で得られた知見を適切に評価することは公認心理師が心理学の学識を実務の場面で実践するために必要な学修である。

心理学だけでなく、医学あるいは社会科学において要求される効果研究の基準を学修し、効果研究で必要とされる統計解析手法の理解を深める。また、心理支援などの実践のプロセスを分析・検討するために要求される観察法・面接法なども質的研究法や、実際の心理支援の効果・過程を研究対象とした事例研究法についての理解を深める。

具体的には、研究論文のレビューや分析手法の確認、的確なリサーチレビューの立案と手続きの選定、研究倫理の遵守を踏まえた上での研究計画書や事前承諾書の作成などを目指す。

なおこの科目は、保健医療・教育・産業領域にて5年間、心理支援に従事し、実務経験を有する公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員が担当する。

<到達目標>

各研究法の特徴を理解し、研究計画に反映させることができることを目的とする。

学術論文に対して適切な批判を行い、当該論文の研究知見の有効性と限界に関して議論を行うことができることを目的とする。

心理学研究における倫理的な側面に関する課題とその対処法に関して学ぶことができる。

各種文献データベースの利用方法を知り、自らの研究計画に反映することができることを目的とする。

<授業のキーワード>

実験計画法、要因計画、操作的定義、リサーチ・クエスチョン、質的研究法、事例研究法、研究者倫理、データベース、PsycINFO

<授業の進め方>

演習形式で授業を行う。受講生が発表を行い、各発表の提題に対して、受講生とともに議論を行いながら、授業を進めてゆく。また、本科目に関しては、別の教員が指導するクラスと合同で授業を行うことがある。

<履修するにあたって>

「心理学研究法」の単位を修得していることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

受講生は、各回の授業内容に関して、事前に資料に目を通して、授業に臨むこと(目安として60分)。また各回の授業へのコメント提出時に学修内容を振り返り、授業内容や自身の考えを整理して復習すること(目安として30分)。

<提出課題など>

・PsychoINFOやPubMedなどで、論文要約(abstract)を3編提出し、授業で発表を求める。

・和文論文1編を選び、特にその研究方法に関して、批判的に検討を加えた上で、授業で発表を求める。

・架空の研究計画を立案し、リサーチ・クエスチョンや研究手法について検討し、研究倫理審査を想定した上で同意書等の必要書類の作成を行う。

・インタビュー場面のデモンストレーションや、逐語記録などのデータの分析方法を、授業内で詳細に検討する。

<成績評価方法・基準>

全授業回数の3分の2以上の出席をもって、単位の認定・評価の対象者とする。そのうえで、

授業への積極的参加度(毎回の授業後に提出するコメントや質問、感想等の内容に基づく)(20%)

発表内容(30%)

発表時に用意した配布物(30%)

発表者でないときの発言(20%)

の4点について、それぞれを評価し、その評価結果を合算する。

<テキスト>

指定しない。授業内容に関連する書籍は、参考図書以外にも各回の授業回で随時紹介する。

<参考図書>

研究資料検索用サイト(PsycINFOやPubMed)は図書館Webページの左欄にある、データベース(学内)よりアクセスすると良い

高野陽太郎・岡隆(編)(2017).『心理学研究法 補訂版』有斐閣。

W.J.レイ(著),岡田 圭二(編訳)(2013).『改訂エンサイクロペディア 心理学研究方法論』北大路書房。

山本力(著)(2018).『事例研究の考え方と戦略 心理臨床実践の省察的アプローチ』創元社。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

科学と実証、授業の進め方の説明

第2回 各研究法の概観

主な研究手法について、実際の論文要約を概観しながら学修する。

第3回 研究計画の分析

実験計画の概要について、例題を通して演習する。

第4回 研究計画の分析

心理学実験や調査における操作的定義について、例題を通して取り上げる。

第5回 メタ分析

メタ分析の概要とリサーチ・クエスチョンの設定等について学修する。

第6回 観察法と面接法

観察法と面接法の実施方法について取り上げる。

第7回 事例研究法

事例研究法について、事例報告や事例検討の相違を踏まえて理解する。

第8回 研究倫理と研究計画

遵守すべき研究倫理と研究計画の立案について取り上げる。

第9回 研究発表と批判的検討

受講生による論文のレビューについて、グループ・ディスカッションによる批判的検討を行う。

第10回 研究発表と批判的検討

受講生による論文のレビューについて、グループ・ディスカッションによる批判的検討を行う。

第11回 研究発表と批判的検討

受講生による論文のレビューについて、グループ・ディスカッションによる批判的検討を行う。

第12回 研究発表と批判的検討

受講生による論文のレビューについて、グループ・ディスカッションによる批判的検討を行う。

第13回 インタビュー・データの収集

受講生によるインタビューのデモンストレーションを実施する。

第14回 インタビュー・データの分析

インタビュー・データの分析を行い、分析手法について批判的に検討する。

第15回 振り返り

授業全体の振り返りとまとめを行う。

2022年度 後期

2.0単位

心理学研究法

清水 寛之

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

新型コロナウイルス感染症の状況次第では遠隔授業での実施の可能性があります。その場合は「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

目標：この科目は、心理学研究科修士課程DP1・2・3の獲得を目指します。具体的には、公認心理師として修得していることが望まれる研究手法について学修する。各種介入の効果を適切に測定する、あるいは、効果研究で得られた知見を適切に評価することは公認心理師が心理学の学識を実務の場面で実践するために必要な学修である。心理学だけでなく、医学あるいは社会科学において要求される効果研究の基準を学修し、効果研究で必要とされる統計解析手法の理解を深める。

以上の目標を達成するため、本授業では心理学に関する研究計画（実験計画法）を学び、研究を批判的に評価することを通して、各種介入の効果を適切に測定する、あるいは、効果研究で得られた知見を適切に評価すること

に重きを置く。このため、実験計画法に焦点をあて、そのしよみの理解を深める。

また、効果研究の批判的理解と共に、その知見の集成を目指したメタ分析についても学修し、文献研究を進める上でのポイントを理解することも目指したい。

なお、この科目は、公認心理師であり、神戸市教育委員会巡回相談員を務めている実務経験のある教育が担当します。

< 到達目標 >

実験計画法を理解し、研究計画に反映させることができることを目的とする。

学術論文に対して適切な批判を行い、当該論文の研究知見の有効性と限界に関して議論を行うことができることを目的とする。

心理学研究における倫理的な側面に関する課題とその対処法に関して学ぶことができる。

各種文献データベースの利用方法を知り、自らの研究計画に反映することができることを目的とする。

< 授業のキーワード >

実験計画法、独立変数、従属変数、要因計画、剰余変数、操作的定義、研究者倫理、データベース、PsycINFO、メタ分析

< 授業の進め方 >

演習形式で授業を行う。担当箇所の例題の要点の報告を受講生が行った後に、各例題の趣旨や関連した問題に関して、受講生とともに議論を行いながら、授業を進めてゆく。また、本科目に関しては、別の教員が指導するクラスと合同で授業を行うことがありうる。

< 履修するにあたって >

「心理学研究法」の単位を修得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講生は、各回の授業内容に関して、事前に資料・テキストに目を通し、例題を回答してみるなどして、授業に臨むこと。（目安として90分）

< 提出課題など >

12月末までに、PsycINFOやPubMedなどで、論文要約（abstract）を3編提出し、授業で発表を求める。

これに加えて、和文論文1編を選び、特に、その研究方法に関して、批判的に検討を加えた上で、授業で発表を求める。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席をもって、単位の認定・評価の対象者とする。そのうえで、

授業への積極的参加度（毎回の出席カードへの質問や意見・感想等の内容に基づく）（20%）

発表内容（30%）

発表時に用意した配布物（30%）

発表者でないときの発言（20%）

の4点について、それぞれを評価し、その評価結果を合

算する。

<テキスト>

Solso, R.L. & Johnson, H.H. 浅井邦二監訳 『改訂心理学実験計画入門』 学芸社

<参考図書>

研究資料検索用サイト(PsycINFOやPubMed)は図書館webページの左欄にある, データベース(学内)よりアクセスすると良い

高野陽太郎・岡隆 編 『心理学研究法』 有斐閣
W.J. レイ (著), William J. Ray (著), 岡田 圭二 (翻訳) 「改訂エンサイクロペディア 心理学研究方法論」 北大路書房

<授業計画>

第1回 イントロダクション

科学と実証、授業の進め方の説明

第2回 実験計画の分析1

実験計画の論理、独立変数と従属変数、実験群と統制群

第3回 実験計画の分析2

要因計画、相関的研究

第4回 実験計画の分析3

準実験計画、関数的計画、操作的定義

第5回 実験計画の分析4

統制と実験範例(反復測定計画、要因計画、被験者つり合わせ計画など)

第6回 実験計画の批判的検討1

例題に関するディスカッションを通じた実験計画批判

第7回 被験者変数の統制1

処理群における被験者の等質性、無作為群計画

第8回 被験者変数の統制2

被験者つり合わせ計画, 被験者の脱落への対処

第9回 実験計画の批判的検討2

例題に関するディスカッションを通じた実験計画批判

第10回 メタ分析の概要

メタ分析の概要を学修する

第11回 メタ分析における問題設定

メタ分析における問題の設定の課題, 特に関心のある研究の設定や構成概念の定義の重要性を学修する

第12回 メタ分析における統計指標

効果量の種類と性質

第13回 メタ分析における結果の整理と解釈

メタ分析における結果の整理およびその解釈を学修する

第14回 メタ分析の実際

メタ分析を行った論文を受講生が紹介し, その内容について議論する。

第15回 メタ分析によるレビューとナラティブ・レビュー

メタ分析による文献レビューとナラティブ・レビューを, 実際の研究論文の紹介を通して, その特徴の理解を深める

2022年度 前期

2.0単位

心理学研究法

山本 恭子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は心理学研究科の専門基礎科目であり, DP1, 2 に示す力を獲得することを目指す。

心理学は人を情報源とするデータを用い, 実証的に検討を行うことが研究の基礎にある。倫理的に瑕疵のない方法により適切なデータを収集し, 入手したデータにふさわしい分析手法を用いてデータ解析をするためには, 洗練されたりサーチクエスチョンを立てることも求められる。この科目では, 具体的な研究計画への批判と再検討を通して, 研究計画を組み立てる際の, 構成概念の操作的定義や剰余変数の統制などのポイントを理解し, 受講生それぞれの研究テーマにふさわしい研究計画が立案できることを目指す。また, 人為的な操作や介入が難しい状況におけるデータ収集法としての参与観察法など, 自然観察における研究法も学修し, 収集するデータやデータ解析, そして, 研究知見の信頼性・妥当性を多面的に評価できることも目指す。

<到達目標>

- ・主要な心理学的研究法について説明できる。(知識)
- ・主要なデータ解析法について説明できる。(知識)
- ・研究における倫理的側面に関する課題とその対処法を説明できる。(知識)
- ・心理学研究法の知識を用いて, 科学的な観点から人のこころについて考えることができる。(態度・習慣)
- ・論文の方法・結果を適切に読み取り, 批判的検討を行うことができる(技能)

<授業の進め方>

講義および演習形式により行います。PCを用いて演習問題に取り組むことがあります。

<授業時間外に必要な学修>

研究法や解析法に関する知識は, 各受講生の研究実施に必ず必要となります。授業の予習・復習をするとともに, 獲得した知識や技能をもとに自らの研究計画を洗練させていくようにして下さい。(目安として90分)

<提出課題など>

テキストの内容を分担して発表してもらいます。授業中に演習問題に取り組んでもらい, その都度提出を求めます。演習問題の回答は, 次回の授業の冒頭で解説を行います。

<成績評価方法・基準>

発表60%, 毎回のコメントペーパー40%。

コメントペーパーの2/3以上の提出をもって単位認定の

対象とします。

<テキスト>

高野陽太郎・岡 隆 (2017). 心理学研究法：心を見つめる科学のまなざし 補訂版 有斐閣アルマ ¥2,200+税

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の全般的な進め方について説明します。シラバスを読み、授業計画と概要について説明します。

第2回 心理学の研究法と心理測定

心理学の主要な研究方法について概観し、心理測定法について学びます

第3回 実験法1

実験計画、独立変数と従属変数、独立変数の操作について学びます。

第4回 実験法2

従属変数の測定方法や剰余変数の統制について学びます。

第5回 さまざまな実験法

質問紙実験、準実験、単一事例実験など、さまざまな実験法について学びます

第6回 心理学に特有な問題

人を対象とする実験や調査で生じやすい問題点や倫理的問題について学びます。

第7回 調査法

質問紙調査の実施方法や尺度構成におけるの注意点について学びます。

第8回 観察法

観察法において現象を記述する方法や、確かなデータを得るための注意点について学びます。

第9回 検査法

心理検査の妥当性や信頼性の評価や、検査得点の解釈や標準化について学びます。

第10回 面接法

面接法の種類や実施方法、面接により得られたデータの分析方法について学びます。

第11回 統計的分析

収集されたデータの統計的解析法について学びます。主に、統計的仮説検定、効果量、信頼区間、検定力について取り上げます。

第12回 実験法と分散分析

実験法で得られたデータの特徴や分析方法についてお話しします。また、PCを使って分散分析の演習を行います。

第13回 因子分析

因子分析について学びます。また、PCを使って実際に分析を行います。

第14回 重回帰分析

重回帰分析について学びます。また、PCを使って実際に分析を行います。

第15回 ふりかえり

今までの授業をふり返り、総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

心理支援に関する理論と実践

難波 愛

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、大学院心理学研究科修士課程専攻の学生を対象に開講される公認心理師必須科目である。心理学研究科のDP1に示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶこと、DP3の「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらにDP4の「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を学ぶことを目指す。

この科目は、力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法、心理に関する相談・助言・指導等への上記からの応用について講義とロールプレイによって理解を深める。この科目を通じ、それぞれの技法の基本的知識と技術を修得し、心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができるようになることを目的とする。

なお、この科目担当者は、教育・福祉・医療領域で心理専門職として仕事をしてきた、実務経験のある教員である。従って、実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適用について説明できる。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。
- ・心理療法やカウンセリングの適用の限界、要支援者等のプライバシーへの配慮について説明できる。

<授業の進め方>

受講生が文献を調べてまとめ、レジュメを作って発表し、参加者全員で共有討議する。また、ロールプレイなどの体験学習によって理解を深める。

<履修するにあたって>

毎授業、ショートレポートの提出を求める。

<授業時間外に必要な学修>

事前に伝える授業テーマについて、関連する文献や資料を読み、予習してから授業に臨むこと。(目安として2時間) 発表者は発表の準備をする。(目安として5時

間) 授業後は授業の内容を復習し、次の授業に生かせるよう知識を整理しておく。(目安として2時間)

<提出課題など>

毎授業、ショートレポートの提出を求める。ショートレポートの書き方や評価ポイントは授業ごとに説明を行う。ショートレポートには質問や意見の記入も歓迎する。意見や質問についてのフィードバックは毎授業開始時に行う。

<成績評価方法・基準>

課題の3分の2以上の提出をもって評価の対象とする。授業への参加度40%、発表内容30%、ショートレポート30%として総合的に評価する。

<テキスト>

テキストを指定します。できる限り購入して授業に臨んでください。

公認心理師 実践ガイダンス 2.心理支援 (公認心理師実践ガイダンス)

野島 一彦 岡村 達也 (監修), 小林 孝雄 (著), 金子周平 (著) 木立の文庫 2019年

ISBN-13 : 978-4909862037

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方の説明

第2回 心理面接の基礎知識

個人情報保護やインフォームドコンセント、面接の構造等について学ぶ。

第3回 力動論に基づく心理療法

力動論に基づく心理療法について学ぶ。

第4回 行動論・認知論に基づく心理療法

行動論・認知論に基づく心理療法について学ぶ。

第5回 その他の心理療法1

人間性アプローチについて学ぶ。

第6回 その他の心理療法2

その他の心理療法・表現療法等について学ぶ

第7回 事例から学ぶ1

医療保健分野における事例から学ぶ。

第8回 事例から学ぶ2

福祉分野における事例から学ぶ。

第9回 事例から学ぶ3

教育分野における事例から学ぶ。

第10回 事例から学ぶ4

司法・犯罪分野における事例から学ぶ。

第11回 事例から学ぶ5

産業・労働分野における事例から学ぶ。

第12回 ロールプレイ1

成人の面接場面をロールプレイから学ぶ。

第13回 ロールプレイ2

子どもの面接場面をロールプレイから学ぶ。

第14回 ロールプレイ3

表現療法を用いた面接場面をロールプレイから学ぶ。

第15回 まとめ

授業全体の振り返りと質疑応答を行う。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

石崎 淳一

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

この科目は、公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、

ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習 は、最も基礎的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は医療や教育分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技

法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

越川 陽介

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の

理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、最も基礎的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は医療分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習
公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について

て学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

竹田 剛

<授業の方法>
実習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

この科目は、公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセ

リングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（１）コミュニケーション、（２）心理検査、（３）心理面接、（４）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、最も基礎的な実習を実施する。

なお、この科目の担当者は公認心理師であり、約10年の臨床経験を有している。現在も病院の心療内科でカウンセリングを行う、実務経験のある教員である。実習の中では、心の病気のありようやカウンセリングの実際の観点からもコメントを返し、実践的な学びへと方向づけていく。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジ

ョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

筒井 優介

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と

実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

この科目は、公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、最も基礎的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は医療や教育分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習

・復習など)や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

土井 晶子

<授業の方法>

実習

感染対策のために、4月30日から5月28日までは遠隔授業を行います。

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

この科目は、公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、最も基礎的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は産業分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について

て基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をま

とめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

石崎 淳一

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基に、心理支援・アセスメントに関するより発展的な実習を実施する

なお、この科目担当者は、医療や教育等の現場で心理専門職として10年以上仕事をしてきた、実務経験のある教員である。従って、実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、適切な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について適切な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師が関わる心理支援の様々な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、適切な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技

法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

越川 陽介

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基に、心理支援・アセスメントに関するより発展的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は、医療の現場で心理専門職として10年以上仕事をしてきた、実務経験のある教員である。従って、実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、適切な説明ができ、一部の業務を担当できる(

知識・技能)。

2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について適切な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。

3. 公認心理師が関わる心理支援の様々な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、適切な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

< 参考図書 >

適宜参考図書は紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習
公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について

て学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

竹田 剛

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基に、心理支援・アセ

メントに関するより発展的な実習を実施する

なお、この科目の担当者は公認心理師であり、約10年の臨床経験を有している。現在も病院の心療内科でカウンセリングを行う、実務経験のある教員である。実習の中では、心の病気のありようやカウンセリングの実際の観点からもコメントを返し、実践的な学びへと方向づけていく。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、適切な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について適切な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の様々な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、適切な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法につい

て基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

筒井 優介

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支

援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基に、心理支援・アセスメントに関するより発展的な実習を実施する

なお、この科目担当者は医療や教育分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、適切な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について適切な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師に関わる心理支援の様々な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、適切な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習の

スケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

土井 晶子

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。

心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基に、心理支援・アセスメントに関するより発展的な実習を実施する

なお、この科目担当者は、産業の現場で心理専門職として15年以上仕事をしてきた、実務経験のある教員である。従って、実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、適切な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について適切な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の様々な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、適切な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、

実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。ロールプレイや教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

竹田 剛

< 授業の方法 >

実習

感染対策のために、4月30日から5月29日までの間、遠隔授業を行う可能性がありますので、遠隔授業情報を確認してください。

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は医療や教育分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心をもち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習につい

て学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

土井 晶子

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は産業臨床分野における心理専門職として15年以上の実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。

できる(態度・習慣)。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出結果と実習参加状況により総合的に評価する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習
公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をま

とめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

中川 裕美

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は医療や教育分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

なお、この授業は、リワーク、外部EAP、企業など、産業分野で心理士としての実務経験を10年以上有する教員が担当を行います。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。

2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。

3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

実習形式で進める。

またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出結果と実習参加状況により総合的に評価する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習1

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習2

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習3

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや

心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習4

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習5

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習6

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習7

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習8

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習9

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習10

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習11

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習12

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン1

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン2

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

博野 信次

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なおこの科目の担当者は神経内科医として30年以上の

経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員である。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

三和 千徳

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ) 多職種連携及び地域連携。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習 は、心理実践実習 ・ で獲得した知識・

技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。なお、この科目の担当者は精神科医として医療機関に30年実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

<参考図書>

適宜参考図書は紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習につい

て学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習

村井 佳比子

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関

する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は、特に精神科クリニックで心理専門職として仕事をしてきた、実務経験のある教員である。従って、実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)や課題学習を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。提出された課題には個別にフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。前期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習
公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。

て学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

竹田 剛

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンター

でのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の発展的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（１）コミュニケーション、（２）心理検査、（３）心理面接、（４）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習 は、心理実践実習 で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は医療や教育分野における30年以上の心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について

て学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

土井 晶子

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の

解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は産業分野における心理専門職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10％）、実習記録（20％）、実習発表（20％）、実習報告書（20％）、スーパービジョン（30％）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実

習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

中川 裕美

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の発展的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この授業は、リワーク、外部EAP、企業など、産業分野で心理士としての実務経験を10年以上有する教員が担当を行う。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。

またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習1

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習2

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習3

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習4

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習5

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の

指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習6

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習7

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習8

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習9

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習10

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習11

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習12

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン1

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン2

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全

体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

博野 信次

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なおこの科目の担当者は神経内科医として30年以上の経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員である。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや

心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

三和 千徳

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。公認心理師科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の発展的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習は、心理実践実習で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。なお、この授業の担当者は、精神科医として医療機関での臨床業務を30年経験している実務経験のある教員であり、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。

3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心をもち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

ケースに関わる各種の作業(アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など)を毎日1時間以上必要とする。

< 提出課題など >

ケースに関わる記録他、実習に関わる各種の記録と報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習

村井 佳比子

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。公認心理師必須科目であり、その中の実習科目である。心理学研究科の附設の心理臨床カウンセリングセンターでのケースに関わる実践を中心に実習を行う。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の発展的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、教員の指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。心理実践実習 は、心理実践実習 で獲得した知識・技能を基により発展的・実践的な実習を実施する。

なお、この科目担当者は、特に精神科クリニックで心理専門職として仕事をしてきた、実務経験のある教員である。従って、実習においては心理専門職の現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践

的な学びを目指す。

<到達目標>

1. カウンセリングセンターの行なっている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。またカウンセリングセンターのケースについて検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

ケースに関わる各種の作業（アセスメント及び心理支援の事前準備、実習記録の作成、スーパービジョンの予習・復習など）を毎日1時間以上必要とする。

<提出課題など>

提出課題は授業の中で指? する。提出された課題には個別にフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。後期の学内実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第3回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第4回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第5回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 公認心理師のための心理支援・アセスメント実習

公認心理師のための心理支援・アセスメント実習について学ぶ。カウンセリングセンターのケースを基に教員の指導の下で心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理面接等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 グループ・スーパービジョン

ケースに関わるグループ・スーパービジョンを行う。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習 A

清水 寛之

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。主に、教育領域の実習施設である小中学校、高等学校において実習を行い、教育分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

(エ) 多職種連携及び地域連携。

(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目担当者は、十数年にわたって神戸市教育委員会による「通常学級におけるLD等の特別支援」事業に基づいて神戸市内小中学校に巡回相談の実務経験のある教員である。従って、実習においてはとくに学校現場での心理支援の実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 教育領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。
3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、教育分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また教育分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週3時間以上の、アセスメント(観察)や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～に関わる課題学習を行う。

< 提出課題など >

実習計画書(計画に従い、実習を遂行する)、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習計画書及び実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。教育分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第3回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第4回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第5回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、

アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習 A

道城 裕貴

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。主に、教育領域の実習施設である小中学校、高等学校において実習を行い、教育分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。

（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

（エ）多職種連携及び地域連携。

（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目担当者は、十数年にわたって神戸市教育委員会による「通常学級におけるLD等の特別支援」事業に基づいて神戸市内小中学校に巡回相談の実務経験のある教員である。従って、実習においてはとくに学校現場での心理支援の実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

なお、この演習担当者は公認心理師であり、教育現場で約15年の心理実践の経験があります。

<到達目標>

1. 教育領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、教育分野、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める（一部はオンライン授業）。また教育分野における公認心理師の実践について検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

週3時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～ に関わる課題学習を行う。

<提出課題など>

提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

課題の提出状況と実習参加状況により総合的に評価する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<参考図書>

とくに指定しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。教育分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第3回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第4回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第5回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校

等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習 A

長谷川 千洋

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の

解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。主に、教育領域の実習施設である小中学校、高等学校において実習を行い、教育分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。

（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

（エ）多職種連携及び地域連携。

（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目担当者は教育・医療の心理臨床現場で20年以上の実務経験のある教員である。従って、実習においては心理支援の実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 教育領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。

2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。

3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、教育分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また教育分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週3時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～に関わる課題学習を行う。

<提出課題など>

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

<参考図書>

授業中に適宜指示します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。教育分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第3回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第4回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第5回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎

的な技能を修める。

第8回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習 A

石崎 淳一

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。主に、教育領域の実習施設である小中学校、高等学校において実習を行い、教育分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。

本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

(エ) 多職種連携及び地域連携。

(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目の担当者は医療や教育の現場において心理専門職としての実務経験がある教員である。従って、心理専門職に関わる現場での実際について言及しながらより実践的な学びを深めていく。

< 到達目標 >

1. 教育領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。

2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。

3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、教育分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また教育分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週3時間以上の、アセスメント(観察)や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～に関わる課題学習を行う。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習計画書及び実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

とくに指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。教育分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第3回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第4回 教育分野における学外実習事前指導

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第5回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 教育分野における学外実習

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受け

る。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 教育分野における学外実習事後指導

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習 A

難波 愛

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。主に、教育領域の実習施設である小中学校、高等学校において実習を行い、教育分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。

本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。

（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

（エ）多職種連携及び地域連携。

（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目担当者は、学校臨床にて25年の経験のある教員が担当する授業である。従って、実習においてはとくに学校現場での心理支援の実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 教育領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、教育分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また教育分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週3時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～ に関わる課題学習を行う。

< 提出課題など >

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。教育分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 教育分野における学外実習事前指導1

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第3回 教育分野における学外実習事前指導2

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第4回 教育分野における学外実習事前指導3

教育分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。発達障害、いじめ、不登校など、学校を取り巻く現況や学校内で行われている心理支援について学ぶ。

第5回 教育分野における学外実習1

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 教育分野における学外実習2

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 教育分野における学外実習3

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 教育分野における学外実習4

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 教育分野における学外実習5

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 教育分野における学外実習6

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 教育分野における学外実習7

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 教育分野における学外実習8

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 教育分野における学外実習9

教育分野における実習施設である、小中学校、高等学校等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する児童生徒への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 教育分野における学外実習事後指導1

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 教育分野における学外実習事後指導2

教育分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習B

石崎 淳一

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。福祉領域の実習施設である福祉施設等において実習を行い、福祉分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解と二

ーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目担当者は医療・福祉・教育分野で30年以上の心理職としての実務経験のある教員である。従って、実習においては福祉施設における心理士として働く人たちへの実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 産業領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、福祉分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また福祉分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

< 提出課題など >

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

< 参考図書 >

とくに指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。福祉分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第3回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第4回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第5回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への

支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習 B

長谷川 千洋

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。福祉領域の実習施設である福祉施設等において実習を行い、福祉分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解と二

ーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。なお、この科目は公認心理師であり心理臨床現場で20年以上にわたり実務経験のある担当者が、実践的観点から授業を行う。

<到達目標>

1. 産業領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

<授業のキーワード>

公認心理師、福祉分野、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。また福祉分野における公認心理師の実践について検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

週4時間以上の、アセスメント(観察)や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

<提出課題など>

実習計画書(計画に従い、実習を遂行する)、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習計画書及び実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

<参考図書>

とくに指定しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。福祉分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を

受ける。

第3回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第4回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第5回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習B

清水 寛之

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。福祉領域の実習施設である福祉施設等において実習を行い、福祉分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。

（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

（エ）多職種連携及び地域連携。

（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目担当者は、十数年にわたって神戸市教育委員会による「通常学級におけるLD等の特別支援」事業に基づいて神戸市内小中学校に巡回相談の実務経験のある教員である。従って、実習においてはとくに心理支援の実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 産業領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師に関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、福祉分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また福祉分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

< 提出課題など >

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

とくに使用しない。

< 参考図書 >

授業中に適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。福祉分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 福祉分野における学外実習事前指導1

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第3回 福祉分野における学外実習事前指導2

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第4回 福祉分野における学外実習事前指導3

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第5回 福祉分野における学外実習1

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 福祉分野における学外実習2

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 福祉分野における学外実習3

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 福祉分野における学外実習4

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 福祉分野における学外実習5

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 福祉分野における学外実習6

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 福祉分野における学外実習7

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、

実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 福祉分野における学外実習8

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 福祉分野における学外実習9

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 福祉分野における実習事後指導1

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 福祉分野における実習事後指導2

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習 B

道城 裕貴

< 授業の方法 >

実習。

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。福祉領域の実習施設である福祉施設等において実習を行い、福祉分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支

援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この演習担当者は公認心理師であり、教育現場で約15年の心理実践の経験があります。

<到達目標>

1. 産業領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

<授業のキーワード>

公認心理師、福祉分野、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。また福祉分野における公認心理師の実践について検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

週4時間以上の、アセスメント(観察)や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

<提出課題など>

実習計画書(計画に従い、実習を遂行する)、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習計画書及び実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<参考図書>

とくに指定しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。福祉分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第3回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第4回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第5回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習 B

難波 愛

< 授業の方法 >

実習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。福祉領域の実習施設である福祉施設等において実習を行い、福祉分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び

法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目の担当者は、心理専門職として25年の現場経験を持ち、現在も教育・福祉領域で心理支援を行う実務経験のある教員である。よって、現場経験を踏まえてより高度な臨床実践の学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 福祉領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、福祉分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また福祉分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

< 提出課題など >

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

< 参考図書 >

とくに指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。福祉分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 福祉分野における学外実習事前指導1

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を

受ける。

第3回 福祉分野における学外実習事前指導2

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第4回 福祉分野における学外実習事前指導3

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第5回 福祉分野における学外実習1

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 福祉分野における学外実習2

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 福祉分野における学外実習3

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 福祉分野における学外実習4

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 福祉分野における学外実習5

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 福祉分野における学外実習6

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 福祉分野における学外実習7

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 福祉分野における学外実習8

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 福祉分野における学外実習9

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 福祉分野における実習事後指導1

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 福祉分野における実習事後指導2

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習B

土井 晶子

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。福祉領域の実習施設である福祉施設等において実習を行い、福祉分野に関わる公認心理師の実践について学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、

実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受け、ケースカンファレンスの発表を行う。実習施設によっては、短期の見学を中心とした実習を行う場合もある。

なお、この科目担当者は産業分野で実務経験のある教員である。従って、実習においては心理士として働く人たちへの実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

1. 福祉領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、福祉分野、心理支援、連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める。また福祉分野における公認心理師の実践について検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

週4時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

<提出課題など>

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

<成績評価方法・基準>

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<参考図書>

とくに指定しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。福祉分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第3回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第4回 福祉分野における学外実習事前指導

福祉分野における学外実習に参加するための事前指導を受ける。

第5回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、

実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 福祉分野における学外実習

福祉分野における実習施設である、福祉施設等において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する利用者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 福祉分野における実習事後指導

福祉分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、後期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習C

小久保 香江

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

この科目は公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。病院、診療所などの医療施設において実習を行い、保健医療に関わる公認心理師の実践について、特に神経心理学的アセスメントや高次脳機能障害に関する医療について深く学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。

（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

（エ）多職種連携及び地域連携。

（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受ける。

なお、この科目担当者は、医療施設において公認心理師としての実務経験がある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 保健医療領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。

2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。

3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、保健医療分野、心理支援、多職種連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める（一部はオンライン授業）。また医療分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週3時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～ に関わる課題学習を行う。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出状況と実習参加状況により総合的に評価する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

とくに指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。医療分野における学外実習のスケジュールや注意点などを説明する。

第2回 保健医療分野における学外実習事前指導1

医とは何か。医療現場とはどんなところか。医学と医療について理解する。また、医療現場には医師以外にどのよ

うな職種があるか理解する。

第3回 保健医療分野における学外実習事前指導2

問診とその方法について理解する。神経学的所見の取り方について学ぶ。医療分野の記録方式「SOAP」法について学ぶ。

第4回 保健医療分野における学外実習事前指導3

高次脳機能障害の症状と支援について理解する。神経心理学的検査の実施方法を学ぶ。

第5回 保健医療分野における学外実習1

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回

保健医療分野における学外実習2

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 保健医療分野における学外実習3

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 保健医療分野における学外実習4

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 保健医療分野における学外実習5

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 保健医療分野における学外実習6

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 保健医療分野における学外実習7

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 保健医療分野における学外実習8

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 保健医療分野における学外実習9

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 保健医療分野における学外実習10

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 保健医療分野における学外実習11

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習C

長谷川 千洋

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

この科目は公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。病院、診療所などの医療施設において実習を行い、保健医療に関わる公認心理師の実践について、特に神経心理学的アセスメントや高次脳機能障害に関する医療について深く学ぶ。本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

(エ) 多職種連携及び地域連携。

(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受ける。

なお、この科目担当者は、医療施設において公認心理師

としての20年以上の実務経験がある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

<到達目標>

1. 保健医療領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。
2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。
3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。
4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

公認心理師、保健医療分野、心理支援、多職種連携、倫理

<授業の進め方>

授業は実習形式で進める（一部はオンライン授業）。また医療分野における公認心理師の実践について検討する。

<履修するにあたって>

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

週3時間以上の、アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～ に関わる課題学習を行う。

<提出課題など>

提出課題は授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

課題の提出状況と実習参加状況により総合的に評価する。

<テキスト>

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

<参考図書>

とくに指定しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。医療分野における学外実習のスケジュールや注意点などを説明する。

第2回 保健医療分野における学外実習事前指導1

医とは何か。医療現場とはどんなところか。医学と医療について理解する。また、医療現場には医師以外にどのような職種があるか理解する。

第3回 保健医療分野における学外実習事前指導2

問診とその方法について理解する。神経学的所見の取り方について学ぶ。医療分野の記録方式「SOAP」法について学ぶ。

第4回 保健医療分野における学外実習事前指導3

高次脳機能障害の症状と支援について理解する。神経心理学的検査の実施方法を学ぶ。

第5回 保健医療分野における学外実習1

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回

保健医療分野における学外実習2

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 保健医療分野における学外実習3

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 保健医療分野における学外実習4

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 保健医療分野における学外実習5

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 保健医療分野における学外実習6

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 保健医療分野における学外実習7

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 保健医療分野における学外実習8

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 保健医療分野における学外実習9

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 保健医療分野における学外実習10

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を

受ける。全体で討議し、学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 保健医療分野における学外実習11

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 前期

1.0単位

心理実践実習C

石崎 淳一

< 授業の方法 >
実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。

この科目は公認心理師必須科目であり、学外実習科目である。病院、診療所などの医療施設において実習を行い、保健医療に関わる公認心理師の実践について、特に神経心理学的アセスメントや高次脳機能障害に関する医療について深く学ぶ。本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。

(エ) 多職種連携及び地域連携。

(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受ける。

なお、この科目担当者は、医療施設において公認心理師としての実務経験がある教員である。従って、実習においては現場での実際の関わり方についても細かく言及しながら、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 保健医療領域において行われている心理支援につい

て、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。

2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。

3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。

4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、保健医療分野、心理支援、多職種連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また医療分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間以上の、アセスメント(観察)や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成など、～ に関わる課題学習を行う。

< 提出課題など >

提出課題は授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習計画書及び実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

とくに指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。医療分野における学外実習のスケジュールや注意点などを説明する。

第2回 保健医療分野における学外実習事前指導1

医とは何か。医療現場とはどんなところか。医学と医療について理解する。また、医療現場には医師以外にどのような職種があるか理解する。

第3回 保健医療分野における学外実習事前指導2

問診とその方法について理解する。神経学的所見の取り方について学ぶ。医療分野の記録方式「SOAP」法について学ぶ。

第4回 保健医療分野における学外実習事前指導3

高次脳機能障害の症状と支援について理解する。神経心理学的検査の実施方法を学ぶ。

第5回 保健医療分野における学外実習1

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回

保健医療分野における学外実習2

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 保健医療分野における学外実習3

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 保健医療分野における学外実習4

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 保健医療分野における学外実習5

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 保健医療分野における学外実習6

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 保健医療分野における学外実習7

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 保健医療分野における学外実習8

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 保健医療分野における学外実習9

保健医療分野における実習施設において、実習指導者の指導を受けながら、支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメントや心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 保健医療分野における学外実習事後指導1

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 保健医療分野における学外実習事後指導2

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習D

長谷川 千洋

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。公認心理師科目であり、学外実習科目である。精神科病院、精神神経科診療所などの医療施設において実習を行い、保健医療に関わる公認心理師の実践について、特に精神疾患のアセスメントや心理支援について深く学ぶ。本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受ける。なお、この科目は公認心理師であり医療分野で20年以上にわたり心理臨床の実務経験のある担当者が、実践的観点から授業を行う。

< 到達目標 >

1. 保健医療領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、保健医療分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また保健医療分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間以上の、 アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

< 提出課題など >

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

< 参考図書 >

適宜参考図書は紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。保健医療分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 保健医療分野における学外実習事前指導1

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、問診の方法、初診時の予備面接の方法などを学ぶ。

第3回 保健医療分野における学外実習事前指導2

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、精神症状の分類、診断などを学ぶ。

第4回 保健医療分野における学外実習事前指導3

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、保健医療分野に関する法律、特に精神保健福祉法について学ぶ。

第5回 保健医療分野における学外実習1

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 保健医療分野における学外実習2

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 保健医療分野における学外実習3

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 保健医療分野における学外実習4

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 保健医療分野における学外実習5

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 保健医療分野における学外実習6

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 保健医療分野における学外実習7

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 保健医療分野における学外実習8

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 保健医療分野における学外実習9

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 保健医療分野における学外実習事後指導1

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 保健医療分野における学外実習事後指導2

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要

な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習D

三和 千徳

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。公認心理師科目であり、学外実習科目である。精神科病院、精神神経科診療所などの医療施設において実習を行い、保健医療に関わる公認心理師の実践について、特に精神疾患のアセスメントや心理支援について深く学ぶ。本実習は、次の(ア)～(オ)の事項の基本的な水準の修得を目的とする。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等。(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(エ)多職種連携及び地域連携。(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記(ア)～(オ)の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受ける。なお、この授業の担当者は、精神科医として医療機関での臨床業務を30年経験している実務経験のある教員であり、より実践的な学びを目指す。

< 到達目標 >

1. 保健医療領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる(知識・技能)。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる(知識・技能)。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる(態度・習慣)。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

公認心理師、保健医療分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また保健医療分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間以上の、アセスメント(観察)や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

< 提出課題など >

実習計画書(計画に従い、実習を遂行する)、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況(10%)、実習記録(20%)、実習発表(20%)、実習計画書及び実習報告書(20%)、スーパービジョン(30%)により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書は紹介する。

< 参考図書 >

適宜参考図書は紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。保健医療分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 保健医療分野における学外実習事前指導1

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、問診の方法、初診時の予備面接の方法などを学ぶ。

第3回 保健医療分野における学外実習事前指導2

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、精神症状の分類、診断などを学ぶ。

第4回 保健医療分野における学外実習事前指導3

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、保健医療分野に関する法律、特に精神保健福祉法について学ぶ。

第5回 保健医療分野における学外実習1

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 保健医療分野における学外実習2

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を実践して、アセスメント(観察)や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 保健医療分野における学外実習3

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所に

において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 保健医療分野における学外実習4

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 保健医療分野における学外実習5

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 保健医療分野における学外実習6

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 保健医療分野における学外実習7

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 保健医療分野における学外実習8

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 保健医療分野における学外実習9

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 保健医療分野における学外実習事後指導1

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 保健医療分野における学外実習事後指導2

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

2022年度 後期

1.0単位

心理実践実習D

竹田 剛

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、心理学研究科のDPに示す「公認心理師の主要5分野等で心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能」を学ぶことを目指す。また、同じくDPに示す「心理学の理論と実践を相互に関連づけることで、諸分野の今日的課題の解決の方法を見出すこと」、さらに「高い倫理性と強固な責任感を持って多様な人々と協働し、研究や職務において主体的な役割を果たすこと」を心理支援の実践を通して学ぶことを目指す。公認心理師科目であり、学外実習科目である。精神科病院、精神神経科診療所などの医療施設において実習を行い、保健医療に関わる公認心理師の実践について、特に精神疾患のアセスメントや心理支援について深く学ぶ。本実習は、次の（ア）～（オ）の事項の基本的な水準の修得を目的とする。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。上記（ア）～（オ）の学修のために、実習生はケースを担当し、実習指導者および教員の事前・事後指導、および帰校日指導を受ける。

なお、この科目の担当者は公認心理師であり、約10年の臨床経験を有している。現在も病院の心療内科でカウンセリングを行う、実務経験のある教員である。実習の中では、心の病気のありようやカウンセリングの実際の観点からもコメントを返し、実践的な学びへと方向づけていく。

< 到達目標 >

1. 保健医療領域において行われている心理支援について、基本的な説明ができ、一部の業務を担当できる（知識・技能）。2. 心理支援・アセスメントの複数の代表的な理論や方法について、基本的な説明ができ、一部の技法を自ら実施できる（知識・技能）。3. 公認心理師が関わる心理支援の基本的な事項に関心を持ち、ケースについて心理学的観点から考えることができる（態度・習慣）。4. 公認心理師として必要な連携や倫理について理解し、基本的な態度を積極的に身につけようとしている（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

公認心理師、保健医療分野、心理支援、連携、倫理

< 授業の進め方 >

授業は実習形式で進める。また保健医療分野における公認心理師の実践について検討する。

< 履修するにあたって >

実習マニュアルをよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

週4時間以上の、 アセスメント（観察）や支援の準備、支援記録の作成、実習計画書および実習記録に基づく実習報告書の作成などを行う。

< 提出課題など >

実習計画書（計画に従い、実習を遂行する）、ケースや見学に関わる記録他、実習に関わる各種の記録と最終的な実習報告書の作成が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

定められた実習参加の状況（10%）、実習記録（20%）、実習発表（20%）、実習計画書及び実習報告書（20%）、スーパービジョン（30%）により総合的に判定する。

< テキスト >

教科書は使用しないが、適宜参考図書を紹介する。

< 参考図書 >

適宜参考図書を紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この授業の進め方について説明する。保健医療分野における学外実習のスケジュールや注意点等を説明する。

第2回 保健医療分野における学外実習事前指導1

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、問診の方法、初診時の予備面接の方法などを学ぶ。

第3回 保健医療分野における学外実習事前指導2

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、精神症状の分類、診断などを学ぶ。

第4回 保健医療分野における学外実習事前指導3

保健医療分野における学外実習に参加するための事前指導として、保健医療分野に関する法律、特に精神保健福祉法について学ぶ。

第5回 保健医療分野における学外実習1

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第6回 保健医療分野における学外実習2

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第7回 保健医療分野における学外実習3

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第8回 保健医療分野における学外実習4

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第9回 保健医療分野における学外実習5

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第10回 保健医療分野における学外実習6

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第11回 保健医療分野における学外実習7

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第12回 保健医療分野における学外実習8

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第13回 保健医療分野における学外実習9

保健医療分野における実習施設である、病院や診療所において、実習指導者の指導を受けながら支援を要する者への支援を行う。心理支援の技法を实践して、アセスメント（観察）や心理支援等の技法について基礎的な技能を修める。

第14回 保健医療分野における学外実習事後指導1

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要な事項をまとめる。

第15回 保健医療分野における学外実習事後指導2

保健医療分野における学外実習を振り返り、事後指導を受ける。全体で討議し、前期での学びを振り返り、重要

な事項をまとめる。

2022年度 前期

2.0単位

心理的アセスメントに関する理論と実践

小久保 香江

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、心理学研究科修士課程の学生（1年次）を対象に開講される選択科目である。医療・福祉・教育現場に携わる心理師にとって、患者やクライアントを査定することは必須の業務である。それゆえ、心理師の養成課程において、査定スキルを養うことは最重要ともいえる課題である。本講義は、国内の医療・福祉・教育機関で最も用いられるWechsler式知能検査（WAIS- 等）を中心に実施方法の理解、実施の仕方、解釈理論の理解、査定結果のフィードバック文書の作成の仕方、クライアントへのフィードバックの仕方を修得する。

本講義は、心理学研究科修士課程のDPに示す、心理学の専門性を必要とする職業を担うための広い視野に立つ心理学の専門的知識・技能を身につける(DP1)ことを目的とする。この科目の担当者は、公認心理師の資格を有し、15年以上の臨床経験があり、現在も病院に勤務する実務経験のある教員です。時には、医療における心理学の役割についても言及しながら、深い学びへと繋げていきます。

< 到達目標 >

Wechsler式知能検査を適切に実施し、正しくスコアリングすることができる。

Wechsler式知能検査の下位検査および下位因子について、第三者（クライアント等）に的確に解説することができる。

Wechsler式知能検査の結果に関するフィードバック文書を適切に作成することができる。

医療現場での心理アセスメントの流れについて理解できる。

< 授業のキーワード >

知能検査、ロールシャッハテスト、公認心理師

< 授業の進め方 >

検査の手続き、スコアリング、解釈に関する講義とともに、アセスメントの実施・解釈・フィードバック資料の作成などを行う。

< 履修するにあたって >

感染対策をとりながら心理検査の実施を行うことが求められます。心理検査実施の進み具合により、授業内容が

一部変更することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

国家試験（公認心理師試験）への対策を考慮し、講義前後の時間を用い、本や資料を丹念に読み込むこと（目安2時間/週）。

< 提出課題など >

WAIS- およびロールシャッハテストを実施し、その結果に関するフィードバック資料を提出することを求める。提出された資料に対して、コメントを返却する。

< 成績評価方法・基準 >

全授業回数の3分の2以上の出席者のみが単位の認定・評価の対象になります。

公的な欠席届を提出した場合は原則として出席扱いとします。成績評価は、課題50%、出席状況および授業への参加態度の積極性50%で総合的に判断します。

課題内容の目的や要点の整理の仕方、方法の明確さなどについて適切に評価し、コメントを伝えます。

< テキスト >

授業でお伝えします。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

本講義の内容、感染対策、授業の進め方、成績評価について説明します。

第2回 知能検査WAIS

WAIS- の内容と実施方法について学ぶ。

第3回 知能検査WAIS

WAIS- の下位検査の実施と下位因子の理解について学ぶ。

第4回 知能検査WAIS

WAIS- の下位検査の実施と下位因子の理解について学ぶ。

第5回 知能検査WAIS

IQおよび群指数の算出、臨床的解釈について学ぶ。

第6回 症例から学ぶ1

症例を通して、心理アセスメントを学ぶ。

第7回 症例から学ぶ2

症例を通して、心理アセスメントを学ぶ。

第8回 症例から学ぶ3

症例を通して、心理アセスメントのを学ぶ。

第9回 症例から学ぶ4

症例を通して、心理アセスメントを学ぶ。

第10回 WISC-

WISC- の実施方法と下位検査について学ぶ

第11回 WISC-

WISC- の臨床的解釈について学ぶ

第12回 ロールシャッハテスト

ロールシャッハテストの内容と実施方法について学ぶ

第13回 ロールシャッハテスト

ロールシャッハテストの内容と実施方法について学ぶ。

第14回 ロールシャッハテスト

ロールシャッハテストの内容と実施方法について学ぶ。

第15回 振り返り

これまでの講義の総括をします。

2022年度 前期

2.0単位

保健医療分野に関する理論と支援の展開

三和 千徳

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、大学院心理学研究科修士課程専攻の学生を対象に開講される公認心理師科目であり、心理学研究科のDP1、3、4を獲得することを目的としている。この授業では、保険医療分野に関わる公認心理師の理論と支援の展開、実践について学ぶ。主に、次のような問題にする理論と専門的支援方法について学ぶ。ストレスと心身の疾病との関係、医療現場や保健活動における公認心理師が関わる多くの疾病、障害と当事者および関係者に対する心理支援、災害時等に関わる心理支援、また、精神医療等の医療システムの中でのチーム医療と多職種連携、その中での公認心理師の役割についても学ぶ。授業では、参加者が輪番で専門書や学術論文から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う。保健医療分野の問題について、基礎的な知識のみならず、診断法や治療法、最近の研究の動向などについて理解を深める。また理論のみならず、実際の心理社会的な援助に役立つような知識を獲得することを目標とする。なお、この授業の担当者は、精神科医として医療機関での臨床業務を30年経験している。実務経験のある教員であり、より実践的な観点から講義を行う。

< 到達目標 >

保健医療分野の問題について、基礎的な知識のみならず、診断法や治療法、最近の研究の動向などについて理解し、説明できることを目標とする。

< 授業のキーワード >

精神医学、DSM-5、ICD-11、統合失調症、うつ病、双極性障害、不安症、強迫症、神経発達症

< 授業の進め方 >

保健医療分野の問題について参加者が輪番でテキストや学術論文から担当範囲をまとめて報告し、教員からその治療や研究の最近の動向を講義し、参加者全員で討論を行う。また、小テスト（Microsoft Forms）の提出をもって出席とする（出席カードの配布なし）。小テストの正答や学生からの質問は次回以降の授業でフィードバックを行う。

< 履修するにあたって >

発表を担当する保健医療分野のテキストを読むことは当然として、それに関連する学術論文なども読んでおくこと。また発表する保健医療分野の問題については、必ずDSM-5とICD-11の両方を用いて発表・考察すること。発表は必ずレジユメを準備すること。絶対に無断欠席をせず、自分の発表に関しては責任を持ち、やむを得ず発表ができない場合には事前に他の人と交渉して交代すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、テキストと関連する学術論文を読んで、発表の準備をする（目安として2時間）。事後学習として、教員から解説・指摘された点や、質疑応答で扱われた点を調べ、理解を深める（目安として1時間）。

< 提出課題など >

発表の方法や小テストについては授業の中で提示する。

< 成績評価方法・基準 >

3分の2の出席で評価の対象となる。発表の内容（50%）や小テスト（50%）にもとづき総合的に評価を行う。

< テキスト >

子安増生（監修） 「公認心理師のための精神医学 精神疾患とその治療」 金芳堂

< 参考図書 >

必要に応じて授業中に提示する。

< 授業計画 >

第1回 本演習に関するオリエンテーション

演習の進め方などのオリエンテーション

第2回 精神疾患のみかた

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第3回 精神疾患の診断

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第4回 精神疾患と薬物療法

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第5回 心理療法・支援の基本

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第6回 リエゾン精神医学と心理支援

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第7回 多職種協働と医療連携

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第8回 統合失調症

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第9回 うつ病、双極性障害

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第10回 強迫症、不安症群、適応障害

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第11回 神経発達症群

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第12回 注意欠陥多動性障害、チック障害

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第13回 児童思春期における心理的問題

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第14回 女性の心理的問題

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う

第15回 高齢期における心理的問題

参加者が輪番で専門書や学術文献から担当範囲をまとめて報告し、参加者全員で討論を行う